小坂子一木峯遺跡

小坂子町地内最終処分場西側生活道路(市道06-475)改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

小坂子一木峯遺跡

小坂子町地内最終処分場西側生活道路(市道06-475)改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

前橋市・大胡町・宮城村・粕川村の1市1町2村は昨年12月5日に合併を行い、赤城山南麓の広範囲を占めることとなりました。

かつて、この地の養蚕を支えた風物詩といえる桑畑は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な圃場整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

今回の小坂子一木峯遺跡も赤城山南麓に立地するものであり、調査によって律令時代の竪穴住居跡8軒と縄文時代の土器を検出することができました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成17年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　中原惠治

例　　言

1. 本書は、小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06 － 475）改良事業に伴う小坂子一木峯遺跡（こざかしいちきみねいせき）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 中原惠治）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた㈲毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同所研究所員 和久 裕昭、常深 尚、柳井 有子である。
3. 発掘・整理調査、および報告書作成は、平成 16 年 12 月 14 日～平成 17 年3月 11 日の期間で実施した。
4. 遺跡は群馬県前橋市小坂子町 1827-2 ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記のとおりである。

   小坂子一木峯遺跡・・・・・・・遺跡コード：16C36　　面積：1,639 ㎡
5. 本書の編集実務は㈲毛野考古学研究所が行い、同研究所員 和久および柳井が担当した。
6. 本文の執筆については、Ⅰを小峰 篤（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、Ⅱを柳井、Ⅲ～Ⅵを和久がそれぞれ担当した。
7. 調査にかかわる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
8. 発掘調査・整理作業に携わった方々は下記のとおりである。

   青木美恵子　片桐 喜夫　樺澤 佳美　設楽 武久　志村 久子　高木 周平　高橋藤次郎
   徳江 曜一　峰岸 イネ

凡　　例

1. 本書で使用した地形図の発行者・縮尺は各図キャプション脇に示した。
2. 遺構挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡の平面図および土層図・エレベーション図を1/60、カマドを1/30、土坑・ピットを1/40 として掲載し、各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、国家座標値（世界測地系に基づく）は遺跡全体図中に示してある。
3. 遺構の規模は基本的に中軸線上で計測し、上端での数値である。長(主)軸方位は座標北を基準とした振れを示す。また、土層図・エレベーション図の基準線数値は標高を示す。
4. 遺物挿図の縮尺は1/ 1～1/ 5の範囲で掲載し、挿図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物挿図とほぼ同縮尺である。遺物観察表数値で、（ ）内数値は推定値、〔 〕内数値のあるものは残存値である。
5. 挿図中に使用したスクリーントーンおよびドットなどの記号については、必要に応じ挿図中に注釈を提示した。

目　　次

はじめに
例　　言
凡　　例
目　　次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1. 遺跡の立地 …… 1
　2. 歴史的環境 …… 1
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 7
　1. 調査の方法 …… 7
　2. 調査の経過 …… 7
Ⅳ　基 本 層 序 …… 7
Ⅴ　発見された遺構と遺物 …… 8
　1. 縄文時代 …… 8
　　1号竪穴状遺構 …… 8
　　1号土坑 …… 8
　　遺構外出土遺物 …… 9
　2. 奈良・平安時代 …… 9
　　H－1号住居跡 …… 9
　　H－2号住居跡 …… 9
　　H－3号住居跡 …… 10
　　H－4号住居跡 …… 10
　　H－5号住居跡 …… 11
　　H－6号住居跡 …… 11
　　H－7号住居跡 …… 12
　　H－8号住居跡 …… 12
　　遺構外出土遺物 …… 13
　3. 時代・時期不明 …… 13
　　1号溝状遺構 …… 13
　　2号溝状遺構 …… 13
　　27号ピット …… 14
　　44号ピット …… 14
　　48号ピット …… 14
Ⅵ　ま と め …… 33

主要参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

Fig. 1　周辺の遺跡 …… 2
Fig. 2　遺跡の位置 …… 4
Fig. 3　遺跡全体図 …… 5
Fig. 4　基本層序 …… 7
Fig. 5　1号竪穴状遺構、1号土坑 …… 16
Fig. 6　H-1・2号住居跡 …… 17
Fig. 7　H-2号住居跡 …… 18
Fig. 8　H-3号住居跡 …… 19
Fig. 9　H-4号住居跡 …… 20
Fig.10　H-5・6号住居跡 …… 21
Fig.11　H-6号住居跡 …… 22
Fig.12　H-7号住居跡 …… 23
Fig.13　H-8号住居跡 …… 24
Fig.14　1号溝状遺構、27、44、48 号ピット …… 25
Fig.15　2号溝状遺構 …… 26
Fig.16　縄文時代の遺物 …… 26
Fig.17　H-1～4号住居跡出土遺物 …… 27
Fig.18　H-5～7号住居跡出土遺物 …… 28
Fig.19　H-8号住居跡、1・2号溝状遺構、27 号ピット、奈良・平安時代 遺構外出土遺物 …… 29

表目次

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表 …… 3
Tab. 2　土坑・ピット観察表 …… 15
Tab. 3　縄文時代遺物観察表 …… 30
Tab. 4　H-1号住居跡出土遺物観察表 …… 30
Tab. 5　H-2号住居跡出土遺物観察表(1) …… 30
Tab. 6　H-2号住居跡出土遺物観察表(2) …… 31
Tab. 7　H-3号住居跡出土遺物観察表(1) …… 31
Tab. 8　H-3号住居跡出土遺物観察表(2) …… 31
Tab. 9　H-3号住居跡出土遺物観察表(3) …… 31
Tab.10　H-4号住居跡出土遺物観察表 …… 31
Tab.11　H-5号住居跡出土遺物観察表(1) …… 31
Tab.12　H-5号住居跡出土遺物観察表(2) …… 31
Tab.13　H-6号住居跡出土遺物観察表(1) …… 32
Tab.14　H-6号住居跡出土遺物観察表(2) …… 32
Tab.15　H-6号住居跡出土遺物観察表(3) …… 32
Tab.16　H-6号住居跡出土遺物観察表(4) …… 32
Tab.17　H-7号住居跡出土遺物観察表 …… 32
Tab.18　H-8号住居跡出土遺物観察表 …… 32
Tab.19　1号溝状遺構出土遺物観察表 …… 33
Tab.20　2号溝状遺構出土遺物観察表 …… 33
Tab.21　27 号ピット出土遺物観察表 …… 33
Tab.22　奈良・平安時代 遺構外出土遺物観察表 …… 33

写真図版目次

PL. 1　遺跡の位置と周辺の地形
PL. 2　1区・2区全景
　　3区全景
　　4区全景
　　5区全景
PL. 3　1号竪穴状遺構（西から）
　　1号竪穴状遺構 遺物出土状況（北西から）
　　1号土坑（北から）
　　1号住居跡掘り方（南から）
　　2号住居跡生活面（北西から）
　　2号住居跡 カマド南北セクション（西から）
　　2号住居跡 カマド東西セクション（南から）
　　2号住居跡貯蔵穴（東から）
PL. 4　2号住居跡掘り方（西から）
　　3号住居跡掘り方（東から）
　　3号住居跡 カマド東西セクション（南から）

3号住居跡貯蔵穴（南から）
4号住居跡（東から）
4号住居跡 カマド南北セクション（西から）
4号住居跡 カマド東西セクション（南から）
4号住居跡掘り方（東から）
PL. 5　5号住居跡（北から）
5号住居跡 遺物出土状況（北西から）
6号住居跡生活面（西から）
6号住居跡南北セクション（東から）
6号住居跡 遺物出土状況（西から）
6号住居跡貯蔵穴（東から）
6号住居跡掘り方（西から）
7号住居跡生活面（東から）
PL. 6　7号住居跡セクション（東から）
7号住居跡 カマド東西セクション（南から）
7号住居跡掘り方（西から）
8号住居跡生活面（東から）
8号住居跡 P－1（東から）
8号住居跡 P－2（東から）
8号住居跡 P－3（東から）
8号住居跡 P－4（東から）
PL. 7　8号住居跡掘り方（北から）
44号ピットセクション（東から）
1号溝状遺構（北から）
1号溝状遺構セクション（南から）
2号溝状遺構（東から）
2号溝状遺構セクション（東から）
PL. 8　1区基本層序（南から）
3区基本層序（東から）
4区基本層序（東から）
5区基本層序（東から）
3区基本層序（テストピット、西から）
作業風景 ①（北から）
作業風景 ②（東から）
PL. 9　縄文時代の遺物、H－1・2号住居跡出土遺物
PL.10　H－3～5号住居跡出土遺物
PL.11　H－6～8号住居跡出土遺物
PL.12　1・2号溝状遺構、27 号ピット、奈良・平安時代 遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

平成15年度に前橋市より小坂子町地内での道路改良事業実施に伴う埋蔵文化財の取扱いについて協議を受けた。当該事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地には属していないが地形、周辺遺跡の調査状況を考慮し、事前に試掘調査を実施することとした。

平成16年6月30日に事業課である前橋市農村整備課から試掘調査依頼書が前橋市教育委員会(以下「市教委」という。）に提出された。これを受け市教委では7月21日～22日にかけて試掘調査を行った。調査の結果住居跡及び溝跡などの遺構を検出し、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けた調整に入った。

平成16年10月1日付けで前橋市長より発掘調査依頼が市教委宛に提出された。市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施の可否について打診したところ調査団での調査実施状況を考慮すると、直営調査実施は困難であるとの回答を受けた。このことから、調査団では本調査実施に民間発掘調査会社をあてることとなり調査依頼者である前橋市とも合意に達した。

はじめに調査団と前橋市との間で平成16年10月13日に埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。その後11月25日付けで埋蔵文化財発掘調査委託業務契約を締結した。調査依頼者との契約締結後、調査団は調査にあたる民間発掘調査会社である有限会社 毛野考古学研究所と12月1日付けで業務委託契約を締結した。12月14日より重機による表土掘削開始となった。

本調査を実施する遺跡の名称は、小坂子一木峯遺跡である。「一木峯」は旧地籍の小字名を採用している。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1. 遺跡の立地

小坂子一木峯遺跡は、赤城山の南麓、前橋市中心市街地から北東へ約7.4 km、上毛電鉄江木駅から北方へ約2.5 kmに位置する。

本遺跡は、赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に広がる傾斜地にある。遺跡周辺には、赤城山麓を水源とする小中河川が数多く南流し、南北に長い舌状の丘陵とその丘陵を浸食する谷地をつくる。東へ約1km地点に寺沢川、西へ約2.2 km地点に藤沢川、南西へ約1.5 km地点には薬師川が南流する。北方に赤城山を仰ぎ、南方に関東平野を見渡し、西方には榛名山や浅間山を望むことができる。

周囲における丘陵性の台地は宅地や畑、低地である谷部分は水田として利用されている。遺跡は舌状の台地に立地し、調査区は南北315 mのトレンチ状に設定されており、北端の標高250m、南端は237m、両者の差は約13 mに及ぶ。

2. 歴史的環境

一木峯遺跡の立地する赤城山南麓には、旧石器時代～近代に至る多くの遺跡が存在する。

本遺跡近辺では、南西へおよそ750 m地点にある川白田遺跡(25)で、縄文前期の住居跡22軒と軽石製品が多数出土した。遺跡の東850 m付近、寺沢川の西側に所在する横沢新屋敷遺跡(14)では、縄文前期を中心とした竪穴住居跡26軒が確認されている。また、竪穴式古墳が4基、奈良・平安時代の炭窯が1基、中近世の土葬墓4基、神社跡が確認され、縄文、古墳～中近世に至る遺構が検出されている。遺跡から北西へ750 mの地点にある小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡(23)では、円墳3基が確認され、鉄製直刀1口が出土している。また、南西に約1.7 km下った地点には、檜峯遺跡(27)が立地する。この遺跡は、6世紀中ごろ～10世紀中ごろにかけての集落跡と

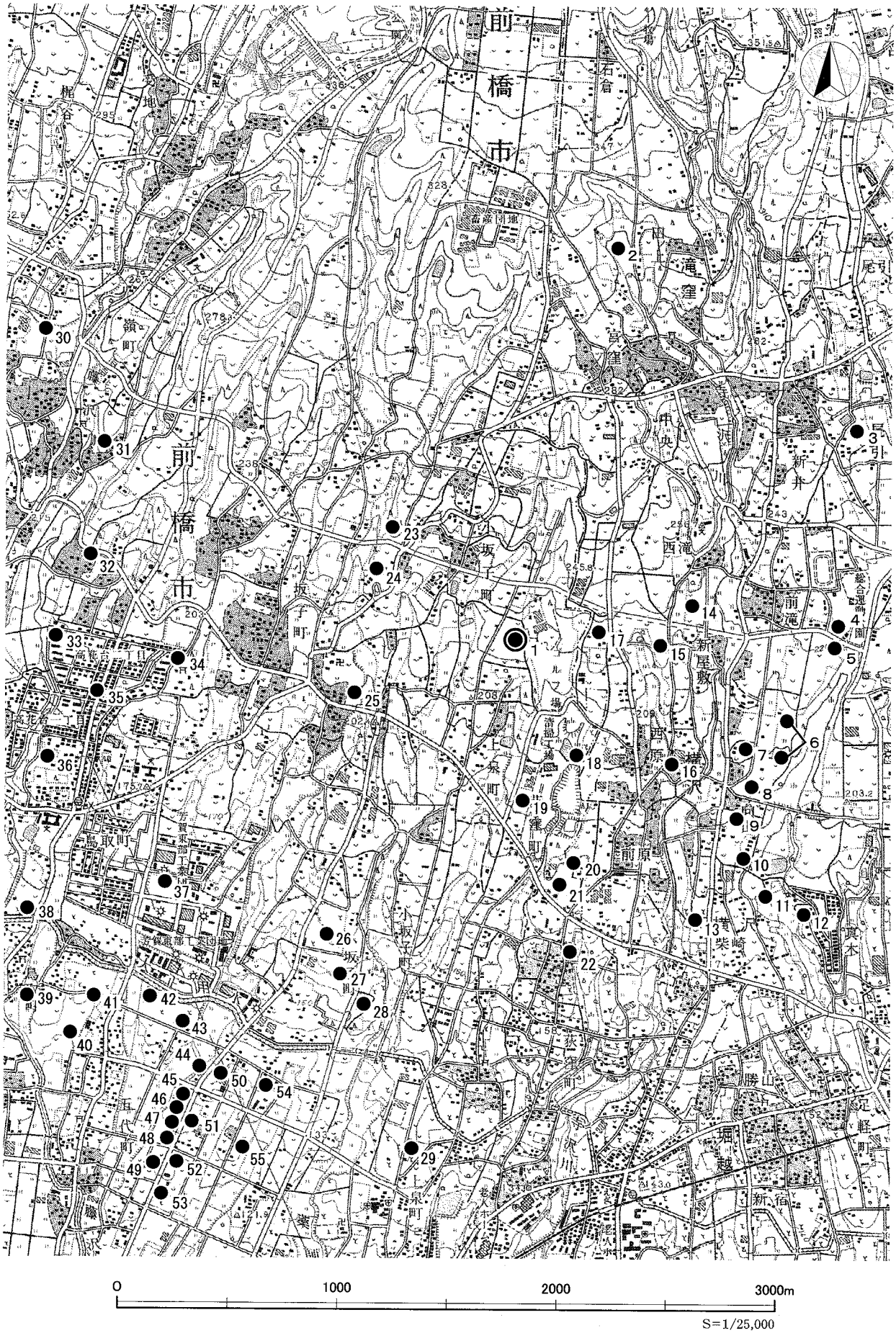


Fig. 1　周辺の遺跡

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代						主な遺構・遺物	文献No.
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中近		
1	一木峯遺跡		○			◎		本遺跡　〔縄文〕土坑	本書
2	西天神遺跡		◎			◎		土坑	(1)
3	乙西尾引遺跡					◎		製鉄炉・炭窯	(1)
4	堀越丙二本松遺跡		◎		◆			〔縄文前期〕土坑	(2)
5	堀越丁二本松B地点遺跡		◎					〔縄文前期〕竪穴遺構・土坑	(3)
6	堀越丁二本松遺跡		◎			◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕掘立柱建物跡・小鍛冶跡	(4)
7	横沢向田遺跡		◎		◆	◎		〔縄文前期〕土坑	(4)
8	横沢向山B地点遺跡					◎			(5)
9	横沢向山遺跡		◎		◆	○		〔縄文〕土坑　〔古墳〕古墳　〔奈良・平安〕掘立柱建物跡	(4)
10	柴崎古墳群				◆			7世紀代の古墳群　獅噛環頭太刀の把頭が出土	(6)
11	茂木二本松遺跡		◎						(4)
12	真木遺跡					◆		火葬墓	—
13	柴崎遺跡		○					土坑	(1)
14	横沢新屋敷遺跡		◎		◆	○	◆○	〔縄文〕土坑・集石遺構〔古墳〕古墳〔奈良・平安〕炭窯〔中近世〕土葬墓・神社跡・土坑・溝	(7)
15	横沢大塚遺跡		○		◆			〔縄文〕土坑　〔古墳〕古墳	(8)
16	横沢城址						○	中世の城郭	(9)(10)
17	横沢芳山遺跡					◎		鍛冶遺構・土坑	(8)
18	荻窪東爪遺跡		◎						(11)
19	荻窪鰯塚遺跡					◎		掘立柱建物跡（1号掘立柱建物跡は布堀りをもつ）	(11)
20	荻窪倉兼Ⅱ遺跡					◎		掘立柱建物跡・溝	(12)
21	荻窪倉兼遺跡					◎		掘立柱建物跡	(12)
22	ほつこし塚古墳				◆			7世紀代の円墳	(13)
23	小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡		○		◆	○		〔縄文〕陥し穴　〔古墳〕円墳・小石槨　〔奈良・平安〕溝	(14)
24	小坂子要害城跡						○	中世の城郭	(10)
25	川白田遺跡		◎				○	〔縄文前期〕土坑・埋設土器・集石　〔近世〕土坑・井戸・畑跡・溝	(15)
26	五代檜峯遺跡				◎				(16)
27	檜峯遺跡				◎	◎		〔平安以降〕溝　竪穴住居跡から奈良三彩小壺が出土	(17)
28	檜峯古墳				◆			7世紀代の横穴石室の円墳	(13)(18)
29	新田塚古墳				◆			7世紀代の円墳	(13)
30	広面遺跡		◎			◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕溝　〔中近世〕暗渠状の水路遺構	(19)
31	嶺城跡						○	中世の城郭	(10)(18)
32	東公田古墳				◆			7世紀後半の円墳	(20)
33	桂正田稲塚古墳				◆			7世紀後半の方墳	—
34	小坂子城跡						○	中世の城郭	(10)(18)
35	芳賀北部団地遺跡		◎			◎		〔縄文〕敷石住居・配石遺構〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・製鉄炉・溝・井戸・土坑	(21)
36	勝沢城跡						○	中世の城郭	(10)(18)
37	芳賀東部団地遺跡		◎		◆◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔古墳〕古墳　〔奈良・平安〕竪穴遺構・掘立柱建物跡・鍛冶址・精錬跡・溝・土坑・井戸　〔中近世〕地下式土坑・土坑・井戸・溝	(22)
38	芳賀北原遺跡		○		◎	◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕土坑	(23)
39	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	△				◎		〔旧石器〕細石器	(24)
40	鳥取福蔵寺遺跡		◎		◎	○		〔縄文〕落込み　〔古墳～奈良・平安〕掘立柱建物跡・井戸址・精錬鍛冶炉・土坑	(25)
41	鳥取東原遺跡				◎		◆	〔江戸時代〕埋葬施設	(26)
42	五代中原Ⅰ遺跡		◎		◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔平安～中世〕掘立柱建物跡　〔中世〕溝	(27)
43	五代中原Ⅱ遺跡		◎		◎	○	○	〔古墳時代後期以降〕掘立柱建物跡　〔近世以降〕土坑・道路	(28)
44	五代伊勢宮Ⅳ遺跡		◎			◎	○	〔縄文〕集石・土坑　〔奈良・平安〕土坑　〔中近世〕土坑・道路	(27)
45	五代伊勢宮Ⅵ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳後期～奈良・平安〕鍛冶工房〔奈良・平安～近世〕掘立柱建物跡〔近世〕溝・道路	(28)
46	五代伊勢宮Ⅴ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳〕小石槨〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・溝〔中近世〕竪穴状遺構・溝他	(29)
47	五代伊勢宮Ⅱ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳〕竪穴状遺構　〔奈良・平安〕掘立柱建物跡　〔近世〕溝	(30)
48	五代伊勢宮Ⅰ遺跡				◎	◎	○	〔近世〕土坑・溝	(31)
49	五代江戸屋敷遺跡		○		◆◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔古墳〕方形周溝墓・周溝状遺構　〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・溝・井戸　〔中世〕地下式土坑	(32)
50	五代深堀Ⅰ遺跡		◎			◎	○	〔平安～中世〕掘立柱建物跡　〔平安～中近世〕土坑	(33)
51	五代竹花遺跡		◎		◎	◎	○	〔奈良・平安〕土坑〔中近世〕溝・道路跡	(29)
52	五代伊勢宮Ⅲ遺跡		○			◎	○	〔縄文〕土坑〔平安～中世〕掘立柱建物跡・井戸〔中近世〕地下式土坑・溝他	(27)
53	五代木福Ⅰ遺跡		◎		◎	◎	◆○	〔縄文前期〕土坑　〔中近世〕土坑・土葬墓・地下式坑・溝・道路	(29)
54	五代深堀Ⅱ遺跡		◎		◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔中近世〕溝	(27)
55	五代木福Ⅱ遺跡		○		◎	◎	○	〔縄文〕配石遺構〔平安～中近世〕掘立柱建物跡・土坑・溝・井戸〔中世以降〕地下式土坑	(33)

△は遺物のみ確認　◆は古墳・墓域　◎は竪穴住居跡　○は古墳、墓域、竪穴住居跡を除いた遺構のみ確認

＊ 関連文献については、本編末の参考文献一覧中に、上記の文献No.とあわせて明示した。

みられ、竪穴住居跡 76 軒、掘立柱建物跡1棟が検出された。住居跡からは8世紀代の奈良三彩小壺が出土している。南へ約 750 m付近に荻窪鰯塚遺跡(19)、約1～ 1.2km 地点に荻窪倉兼遺跡(21)・荻窪倉兼Ⅱ遺跡(20)がある。荻窪鰯塚遺跡では 10 世紀代の竪穴式住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 10 棟が検出され、1号掘立柱建物跡は布堀りをもつ。荻窪倉兼遺跡、荻窪倉兼Ⅱ遺跡は8世紀～ 10 世紀にかけての集落跡とみられ、前者では竪穴住居跡が 29 軒、掘立柱建物跡 12 棟が検出された。後者では竪穴住居跡 36 軒、掘立柱建物跡 10 棟が検出されている。両遺跡の竪穴住居跡から墨書土器、刀子や鎌といった鉄製品が出土している。また、遺跡周辺には小坂子要害城跡(24)や横沢城跡(16)といった中世の城郭跡も点在する。

遺跡周辺に目を向けると、南西に鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(39)が立地する。この遺跡では、約1万 3,000 年前に堆積した浅間板鼻黄色軽石層直下の関東ローム層から、多数の細石刃文化石器群が確認されている。また遺跡南西では、昭和48年～55年にかけて大規模な発掘が行われた芳賀団地遺跡群(芳賀北部団地遺跡・西部団地遺跡・東部団地遺跡)がある。芳賀北部団地遺跡(35)では、奈良・平安時代の竪穴住居跡 237 軒、掘立柱建物跡8棟のほか、縄文時代前期・後期の竪穴住居跡や中期の敷石住居跡、また中世の勝沢城の一部が検出された。芳賀東部団地遺跡(37)では、古墳～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡約 500 軒、掘立柱建物跡 206 棟のほか、古墳時代、縄文時代前期の竪穴住居跡が検出されている。また、近年調査の進む五代南部工業団地造成に伴う遺跡(42～55)でも、縄文、古墳、奈良・平安各時代の集落が確認されている。

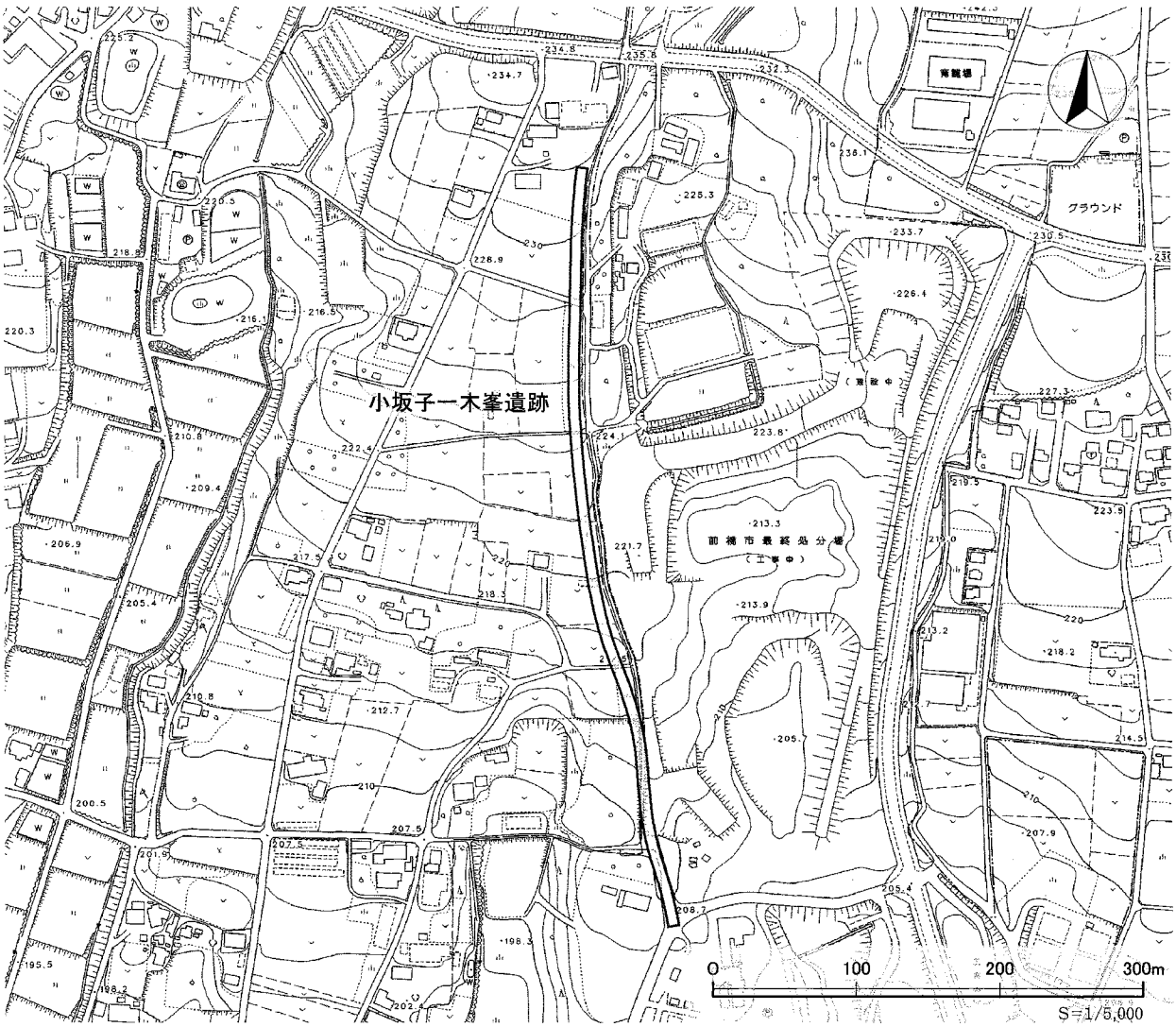


Fig. 2　遺跡の位置

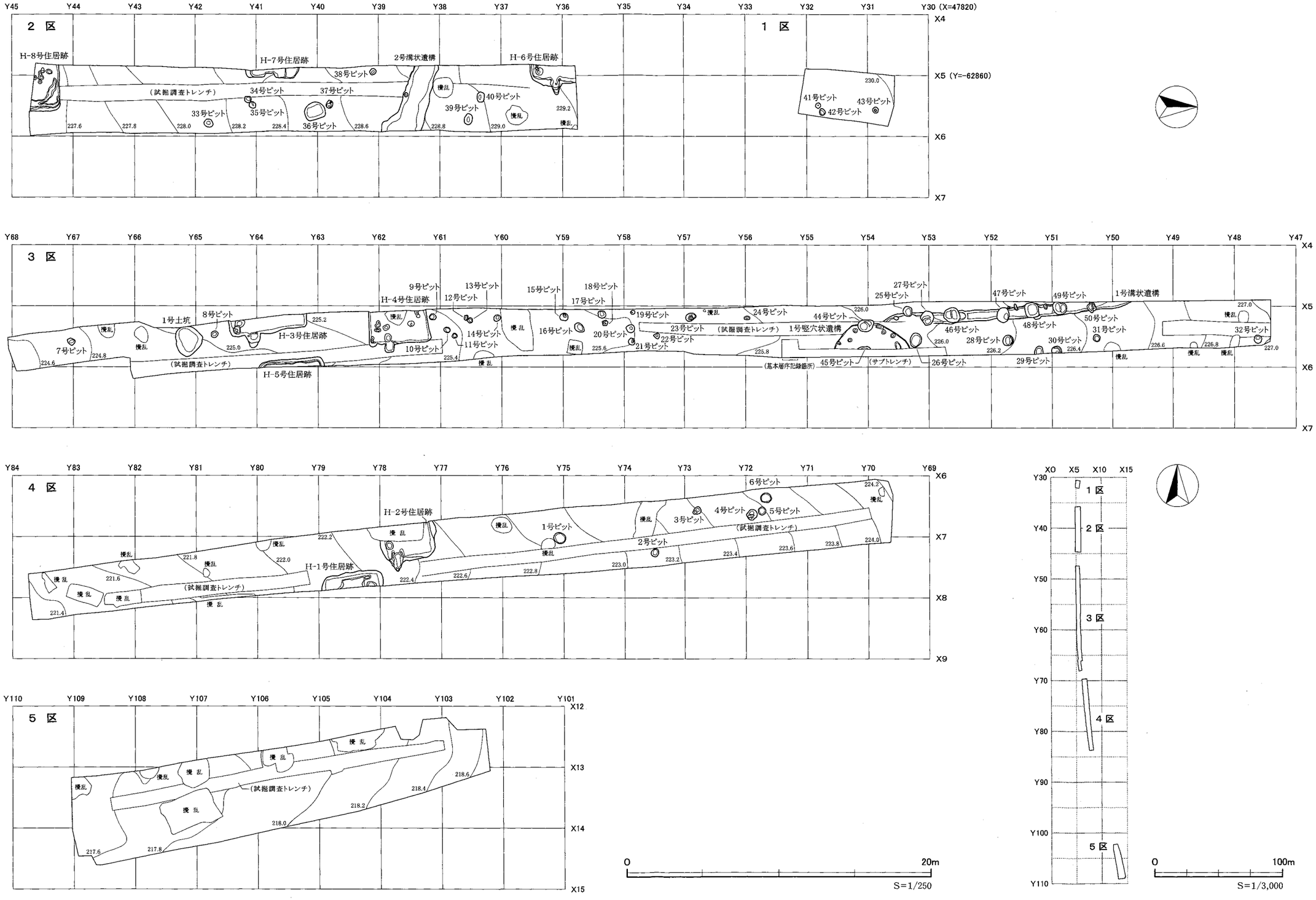

2 区
1 区
3 区
4 区
5 区
H-8号住居跡
H-7号住居跡
2号溝状遺構
H-6号住居跡
H-4号住居跡
H-3号住居跡
H-5号住居跡
H-2号住居跡
H-1号住居跡
1号土坑
1号竪穴状遺構
1号溝状遺構
(試掘調査トレンチ)
(基本層序記録箇所)
(サブトレンチ)
撹乱
0
20m
S=1/250
0
100m
S=1/3,000

Fig. 3　遺跡全体図

Ⅲ　調査の方法と経過

1．調査の方法

前橋市教育委員会による試掘調査の成果により、本遺跡からはローム層または同漸移層において奈良・平安時代の遺構が確認できるものと予測された。現地調査は、遺構確認面までの土層を重機にて除去したあとに、精査および遺構覆土の開掘を人力により行った。

住居跡の調査は、遺構の埋没状態および構築状態、遺物の出土状態を観察・記録し、掘り方のある遺構についてはその調査も実施した。カマドの調査では、掛け口、焚き口、燃焼部、煙道部などの状態の把握に努め、灰、焼土、粘土などの分布・堆積状態を慎重に観察した。

図面作成と遺物の位置記録には、CADシステムによる電子平板を用いた。調査区名は北より1～5区とし、遺構・遺物の位置表示に用いた。また、写真撮影は調査の各段階において随時行い、モノクロ、カラーリバーサルの各35mmフィルムに加え、デジタルカメラも併用した。遺跡の全景写真撮影は、ラジコンヘリコプターを用いて行った。

2．調査の経過

平成16（2004）年12月14日に表土掘削、ついで同15日に人力掘削および遺構確認作業を開始した。20日に住居跡覆土の開掘、22日にはカマドの調査に至った。南端の5区から各種作業に着手し、順次北の調査区に手を広げるという展開で調査は進められた。27日、調査区内外に安全対策を施し、平成16年分の作業を終了した。

平成17（2005）年1月は5日より作業を開始、6日、1区をもってすべての遺構確認作業を終了した。13日、調査区内の清掃後、空撮を実施。遠景および各区全景について、モノクロ・リバーサルを併用して撮影した。19日、発掘調査終了。調査区南側（5区）から重機による埋め戻しに加え、各種設備や器材の撤収を開始。20日、調査区内の埋め戻しを完了し、現地調査に関するすべての工程を終了した。

整理調査は、1月21日より開始した。2月に遺物の写真撮影や実測などの記録作業および報告書編集作業に移行し、3月11日にすべての調査工程を完了させる運びとなった。

Ⅳ　基本層序

前橋市の地形・地質は、① 北東部の赤城火山斜面、② 南西部の洪積台地（いわゆる前橋台地）、③ ①・②にはさまれた広瀬川低地帯、④ 現利根川氾濫原 の4つに大別される。本遺跡は①に属し、南向きの緩斜面をなすほか、東隣りが谷状のくぼみとなり、東方へ向けゆるやかな傾斜をもつ。右は3区中央付近にて記録した土層柱状図であるが、同箇所を除いた調査区の大半において、Ⅱ・Ⅲ層の堆積はごく薄いか、ほとんど確認されなかった。これは、後世の削平などにより、本来堆積していたものが消失した結果とも考えられる。

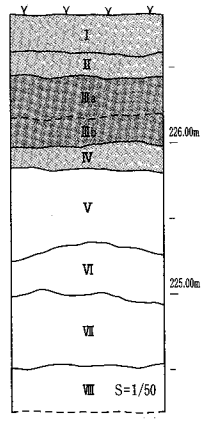


Fig. 4　基本層序

Ⅰ　表　土

Ⅱ　暗灰褐色土　やや砂質。締まり普通、粘性は弱い。

Ⅲ　暗褐色土　上部に径5mm以下のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。色調の明暗により、a・bの2層に細分できる箇所あり。

Ⅳ　暗黄褐色土　ローム漸移層。締まりやや強く、粘性は普通。今回の調査では、本層下部～Ⅴ層上部を遺構確認面に設定した。

Ⅴ　黄褐色土　ソフトローム層。径10mm未満の軽石粒を少量含む。締まり、粘性ともやや強い。

Ⅵ　黄褐色土　As-YP相当層。締まり、粘性とも強い。

Ⅶ　黄褐色土　As-BP相当層。締まり、粘性とも強い。

Ⅷ　暗灰黄色土　暗色帯。締まり、粘性とも強い。

V　発見された遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒のほか、縄文時代後期の竪穴状遺構と見なした1基、縄文時代に属すると考えられる土坑1基、および時期不明の溝状遺構2条とピット50基が検出された。また、遺物としては、土器破片を中心とする1,176点の出土をみている。土器破片の大半は、竪穴住居跡の時期に近いとみられる土師器・須恵器が占める。縄文時代の遺物は僅少で、本遺跡の主たる内容は、奈良・平安時代の集落跡といえるであろう。

1．縄文時代

1号竪穴状遺構

位　置　　3区北部、X5・Y 53 ～ 54 グリッド。

検出状態　本来の範囲の半分ほどが調査区外に位置する。西端部において44号ピットに切られる。

形　状　　おおむね平面円形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みはごく浅く、不明瞭である。

規　模　　検出範囲における最大径4m 94cm、遺構確認面からの深さは6～ 11cm を測る。

長軸方位　　不明。

底面の状態　平坦であるが、顕著な硬化は認められない。

付帯施設　ピット4か所のほか、断続する溝状の浅いくぼみ2か所を認めたが、これらが柱穴や周溝に該当するものかどうかは判然としない。

遺構の埋没状態　覆土は、暗褐色を基調とし、微量の炭化物粒を含んだ土によって構成されている。顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　覆土より、同一個体に属する土器破片23点が出土した。破片の分布状況をみると、平面的にはプランのほぼ全域に散在する反面、いずれも底面から10cm前後上のレベルに位置している。

挿図では、このうち器の部位と文様構成のいずれかをよく示す破片を選んで掲載している。口縁部の横位沈線1条と胴部に施された縦位の垂下文は、縄文時代後期前葉の堀之内1式に近似するが、垂下文には多条化の傾向が認められ、かつ単純な縦位の直線文がほとんどを占める。また、口縁部内面の横位沈線1条は、後出する同2式を特徴づける要素である。胴部上半がくびれるタイプの深鉢には、2式の段階まで1式的な装飾を形骸化させつつも踏襲する例が散見され、本個体もその一例に含まれるであろう。

時　期　　傍証がやや少ない感もあるが、縄文時代後期前葉に構築ないし廃絶された遺構である可能性をもつ箇所として、ここに紹介しておく。

1号土坑

位　置　　3区南部、X5・Y 64 ～ 65 グリッド。

検出状態　西端が遺構外に位置するものの、ほぼ全範囲が検出された。後世の削平により、遺構上部が消失している。

形　状　　平面円形、断面は浅い凹字形ないし不整形を呈する。

規　模　　長径1m 98 cm、短径1m 78cm、深さ28cmを測る。

遺構の埋没状態　覆土は暗黄褐色を基調とする土によって構成され、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　本遺構に伴うことが確実な遺物は見つかっていない。

時　期　　判断材料が少ないものの、覆土の色調などのようすから、縄文時代に属する可能性がある。

遺構外出土遺物

22 点の土器破片が出土している。前期後葉の諸磯c式が最も多く、9点を数える。このほか諸磯b式土器、早期前葉の撚糸文系土器、中期後葉の加曾利E3式土器が各1点含まれている。その他の 10 点では、細別時期不詳ながら、前期後葉と中期の破片が相半ばするとみられる。

2. 奈良・平安時代

H－1号住居跡

位　置　　4区の中央付近、X7・Y 77 ～ 78 グリッド。西にH－2号住居跡が隣接する。

検出状態　本来の範囲の大半が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、70 ～ 80° の傾斜を示す。

規　模　　南北方向の径3m 99cm、遺構確認面からの深さは 59 ～ 46cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　床面は平坦で、硬化が認められる（セクションの7層に対応）。掘り方はプランの周縁部を中心に掘り込まれており、プラン中央には掘り残しが認められた。

壁 周 溝　検出されなかった。

柱　穴　　掘り方レベルにおいてピットが1基検出されているが、柱穴に該当するものかどうかは判然としない。

カ マ ド　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

遺構の埋没状態　覆土は黒褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 24 点が出土した。土師器の細片がほとんどで、その内訳は甕 15 点、坏4点、不明4点となっている。このほか、ごく微細ながら鉄滓が1点検出されている。挿図には、土師器の坏2点を掲載した。

時　期　　奈良・平安時代の住居跡とみられるが、時期の詳細は不明である。8～9世紀代のいずれかに属するものと思われる。

H－2号住居跡

位　置　　4区の中央付近、X6～7・Y 77 グリッド。東にH－1号住居跡が隣接する。

検出状態　本来の範囲の4分の1前後が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。本遺構とおおむね同規模の攪乱による損壊が著しい。

形　状　　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。

規　模　　南北方向の径3m 54cm、遺構確認面からの深さは 63 ～ 15cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　床面は平坦で、カマド周辺において硬化が認められる（セクションの4層に対応か）。掘り方はプランの周縁部を中心に掘り込まれているようにも見えるが、攪乱の影響で詳細は確認できない。

壁 周 溝　検出されなかった。

柱　穴　　検出されなかった。

カ マ ド　東壁の南（右）寄りにて検出された。長軸1m 39cm、燃焼部の最大幅 49cm、煙道の最大幅 24cm を測る。

貯 蔵 穴　カマドの右隣りの位置にて1基検出された。平面円形、断面は浅いＵ字形を呈し、長径 55cm、深さ 17cm を測る。

遺構の埋没状態　覆土は黒褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　総数 84 点が出土した。土師器・須恵器の細片がほとんどで、その内訳は土師器甕 61 点、同坏 13 点、同不明5点、須恵器坏2点、同蓋1点、同瓶1点となっている。このほか、粘土塊が1点含まれる。なお、挿図中の 20 は他の遺物に比べ若干古い時期に属する。

時　期　8世紀後葉から9世紀代前葉の間のものとみられる。

Ｈ－3号住居跡

位　置　3区南部、X5・Ｙ 63 ～ 64 グリッド。東にＨ－5号住居跡が隣接する。

検出状態　大半が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、70°前後の傾斜を示す。

規　模　南北方向の径5m6cm、遺構確認面からの深さは 41 ～ 28cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面･掘り方の状態　床面は平坦で、ロームブロックを主体とする土が敷き詰められ、硬化が認められる（セクションの6層に対応）。掘り方の形状に、顕著な傾向は認められない。

壁 周 溝　検出されなかった。

柱　穴　検出されなかった。

カ マ ド　東壁の南（右）寄りにて検出された。長軸 97cm、燃焼部の最大幅 85cm、煙道の最大幅 51cm を測る。

貯 蔵 穴　カマドの右隣りの位置にて1基検出された。平面円形、断面は浅いＵ字形ないし不整形を呈し、長径 55cm、深さ 31cm を測る。また、貯蔵穴の西部と重複する掘り方レベルにて、焼土や炭化物を多量に含む土で埋まったくぼみが1か所見つかった。カマドの機能と関連した、いわゆる灰掻きピットとみられる。

遺構の埋没状態　覆土は黒褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　総数 118 点が出土した。土師器・須恵器の細片がほとんどで、その内訳は土師器甕 75 点、同坏 16 点、同不明 19 点、須恵器坏5点となっている。このほか、薦編石とおぼしき礫2点、粘土塊1点が含まれる。

時　期　9世紀中葉、またはそれに前後する時期のものとみられる。

Ｈ－4号住居跡

位　置　3区南部、X5・Ｙ 61 ～ 62 グリッド。

検出状態　本来の範囲の半分前後が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。東壁中央付近において、攪乱による削平を受けている。

検出状態　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、80°前後の急傾斜を示す。

規　模　南北方向の径3m 89cm、遺構確認面からの深さは 38 ～ 31cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面･掘り方の状態　床面は平坦で、ロームブロックを多量に含む土が敷き詰められ、硬化が認められる（セクションの5層に対応）。掘り方の形状に、顕著な傾向は認められない。

壁 周 溝　明確なものは検出されなかった。ただし、プラン南東隅の掘り方レベルにおいて、L 字状のくぼみ（P

－7）が検出されている。

柱　穴　　Ｐ－7を含む7基のピットが確認された。このうち、Ｐ－1・2が主柱穴とみられる。Ｐ－3はカマドの手前、Ｐ－4・5はＰ－1の南側でそれぞれ検出されている。また、Ｐ－6は北壁付近に位置し、間仕切り溝となる可能性がある。

カ マ ド　　東壁の南（右）寄りにて検出された。長軸1m81cm、燃焼部の最大幅1m20cm を測る。

貯 蔵 穴　　検出されなかった。

遺構の埋没状態　覆土は、床土とみられる5層を除き、色調などを異にする4つの層に区分される。顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 33 点が出土した。いずれも土師器・須恵器の破片で、その内訳は土師器坏4点、同甕 18 点、須恵器坏5点、同蓋3点、同甕3点となっている。

時　期　　奈良・平安時代の住居跡とみられるが、時期の詳細は不明である。おおむね9世紀前半代に属するものと思われる。

Ｈ－5号住居跡

位　置　　3区南部、X5～6・Ｙ 62 ～ 63 グリッド。西にＨ－3号住居跡が隣接する。

検出状態　大半が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面は、70° 前後の傾斜を示す。

規　模　　南北方向の径4m 25cm、遺構確認面からの深さは 66 ～ 47cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　検出範囲において明瞭な床面は確認できなかった。また、掘り方は比較的平坦である。

壁 周 溝　検出範囲において全周する。

柱　穴　　検出されなかった。

カ マ ド　　検出されなかった。

貯 蔵 穴　　検出されなかった。

遺構の埋没状態　覆土は色調などを異にする9つの層に区分され、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 12 点が出土した。いずれも土師器・須恵器の破片で、その内訳は土師器坏5点、須恵器坏7点となっている。

時　期　　出土遺物のうち、須恵器坏（36・37）の特徴から、8世紀末～9世紀初頭に属するものと思われる。

Ｈ－6号住居跡

位　置　　2区北端、X4～5・Ｙ 35 ～ 36 グリッド。

検出状態　大半が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、50 ～ 60° とゆるやかな傾斜を示す。

規　模　　平面規模は不明、遺構確認面からの深さは 50 ～ 45cm を測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　床面は平坦で、微弱ながら部分的に硬化が認められる。掘り方の形状に、顕著な傾向は認められない。

壁 周 溝　検出されなかった。

柱　穴　　検出されなかった。

カ マ ド　東壁の南(右)寄りにて検出された。長軸2m 37cm、燃焼部の最大幅1m 17cm、煙道の最大幅69cmを測る。なお、燃焼部やや北(左)寄りにて、支脚として用いられた礫が残っていた。材質は安山岩で、ほぼ全面に擦痕がつくほか、側縁を中心に磨痕も認められる。砥石を支脚に転用した例と思われる。

貯 蔵 穴　カマドの南(右)隣りの位置にて1基検出された。平面円形、断面は浅いU字形を呈し、長径98cm、深さ35cmを測る。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　総数187点が出土した。土師器・須恵器の細片がほとんどで、その内訳は土師器坏12点、同甕118点、同不明46点、須恵器坏6点となっている。このほか、粘土塊1点、前述の支脚とみられる礫1点、鉄製品3点(同一個体)が含まれる。

時　期　9世紀中葉のものとみられる。

H－7号住居跡

位　置　2区中央、X4～5・Y 40～41。

検出状態　大半が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、50～60°とゆるやかな傾斜を示す。

規　模　平面規模は不明、遺構確認面からの深さは31～9cmを測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　床面にはやや起伏があり、微弱ながら部分的に硬化が認められる。また、北壁面の掘り方には、テラス状の段差が認められる。

壁 周 溝　検出されなかった。

柱　穴　検出されなかった。

カ マ ド　東壁の南(右)寄りにて検出された。長軸1m 22cm、燃焼部の最大幅74cmを測る。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　総数69点が出土した。土師器・須恵器の細片がほとんどで、その内訳は土師器坏3点、同甕48点、同不明15点、須恵器坏2点となっている。このほか、礫1点が含まれる。

時　期　奈良・平安時代の住居跡とみられるが、時期の詳細は不明である。おおむね9世紀中葉に属するものと思われる。

H－8号住居跡

位　置　2区南端、X4～5・Y 44グリッド。

検出状態　本来の範囲の半分強が調査区外に位置する。他遺構との重複はない。

形　状　平面方形、または隅丸方形を呈していたものとみられる。壁面の掘り込みは、80°前後と急傾斜を示す。

規　模　平面規模は不明、遺構確認面からの深さは56～53cmを測る。

長軸方位　おおむね東を指すものと推測される。

床面・掘り方の状態　床面は平坦で、ロームブロックを主体とする土が敷き詰められ、硬化が認められる(セクションの8層に相当)。また、北壁面の掘り方には、テラス状の段差が認められる。

壁 周 溝　北東隅から東壁付近にかけて検出されている。

柱　穴　　ピット5基が検出され、確然としないもののいずれかが主柱穴であると考えられる。このうちＰ－5は、掘り方レベルで検出されている。ピットの規模は、長径 35 ～ 30cm（平均 33cm）、深さ 26 ～9cm（平均 16cm）である。

カ マ ド　　検出されなかった。

貯 蔵 穴　　検出されなかった。

遺構の埋没状態　覆土は黒褐色ないし暗褐色を呈しており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　覆土上部を中心として、総数 94 点が出土した。土師器・須恵器の細片がほとんどで、その内訳は土師器坏 23 点、同甕 33 点、同不明 11 点、須恵器坏 12 点、同蓋4点、同碗4点、同不明6点となっている。このほか、礫1点が含まれる。

時　期　　8世紀後葉から9世紀代前葉の間のものとみられる。

遺構外出土遺物

総数 358 点が出土した。内訳は、土師器坏 55 点、同甕 176 点、同不明 99 点、須恵器坏 17 点、同蓋2点、同甕6点、同不明3点となっている。ほとんどが細片であり、挿図では実測が可能な5点を掲載した。このうち 68 の土師器甕には、墨書の痕跡が認められる。

3. 時代・時期不明

1号溝状遺構

位　置　　3区北部、X4～5・Y 49 ～ 54 グリッド。

検出状態　後世の削平により南部は消失しており、北方は調査区外へのびている。

形　状　　基本的には平面溝状を呈するが、6基前後のピットが断続的に付随する。断面は、浅いＵ字形である。

規　模　　検出範囲の長さ 18 m、前述のピットを除き幅 76 ～ 44cm、最大深 15cm を測る。

走　向　　N －4° － W。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 60 点が出土した。土師器・須恵器の、摩耗の著しい細片がほとんどである。その内訳は土師器坏 14 点、同甕 26 点、同不明 14 点、須恵器坏4点、同不明2点となっている。

時　期　　伴出遺物などに有力な手がかりがなく、不明としておく。

その他の所見　前述のピットは、長径1m～ 68cm（平均 91cm）、深さ 71cm ～ 20cm（平均 41cm）を測り、長径、深さの双方においてばらつきが認められる。溝状のくぼみと断続するピットの組み合わせは、布掘り工法による柱穴列と類似している。しかしながら、検出された範囲に制約があり、同種の遺構と断定するには至らず、なかば便宜的に溝状遺構として扱うことになった。なお、これらのピットのうち 27、44、48 号ピットについて、のちに所見を掲載しておく。

2号溝状遺構

位　置　　2区北部、X4～5・Y 38 グリッド。

検出状態　当方および西方の調査区外へのびている。

形　状　　平面溝状とみられ、断面は浅いＵ字形を呈する。

規　模　　長さは不明、幅2m 12 ～1m 42cm、深さ 33 ～ 25cm を測る。

走　向　　N － 70° － W 前後。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 71 点が出土した。土師器・須恵器の、摩耗の著しい細片がほとんどである。その内訳は土師器坏1点、同甕 15 点、同不明 37 点、須恵器坏 13 点、同蓋1点、同碗3点となっている。このほか、釘1点が含まれる。

時　期　　伴出遺物などに有力な手がかりがなく、不明としておく。

その他の所見　付随するピットや顕著な整形痕などは認められない。

27 号ピット

位　置　　3区北部、X5・Y 52 ～ 53 グリッド。前述の1号溝状遺構と重複するか、その一部を構成するとみられる。

検出状態　全範囲が検出された。後世の削平により、遺構上部が消失している。

形　状　　平面楕円形、断面は凹字形を呈し、テラス状の段を有する。

規　模　　長径 92cm、短径 80cm、深さ 64cm を測る。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

遺　物　　総数 21 点が出土した。土師器・須恵器の、摩耗の著しい細片がほとんどである。その内訳は土師器坏2点、同甕4点、同不明 12 点、須恵器坏3点となっている。

時　期　　伴出遺物などに有力な手がかりがなく、不明としておく。

44 号ピット

位　置　　3区北部、X5・Y 53 ～ 54 グリッド。前述の1号溝状遺構と重複するか、その一部を構成するとみられる。

検出状態　全範囲が検出された。1号竪穴状遺構を切るほか、後世の削平により遺構上部が消失している。

形　状　　平面円形、断面はU字形を呈する。

規　模　　長径 95 cm、短径 88cm、深さ 75cm を測る。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成される。顕著な人為の痕跡は認められないが、比較的短期間で埋没した可能性がある。

遺　物　　なし。

時　期　　伴出遺物などに有力な手がかりがなく、不明としておく。

48 号ピット

位　置　　3区北部、X4～5・Y51グリッド。前述の1号溝状遺構と重複するか、その一部を構成するとみられる。

検出状態　全範囲が検出された。後世の削平により、遺構上部が消失している。

形　状　　平面隅丸方形、断面はU字形を呈する。

規　模　　長径 96 cm、短径 88cm、深さ 42cm を測る。

遺構の埋没状態　覆土は暗褐色を基調とする土によって構成されており、顕著な人為の痕跡は認められない。

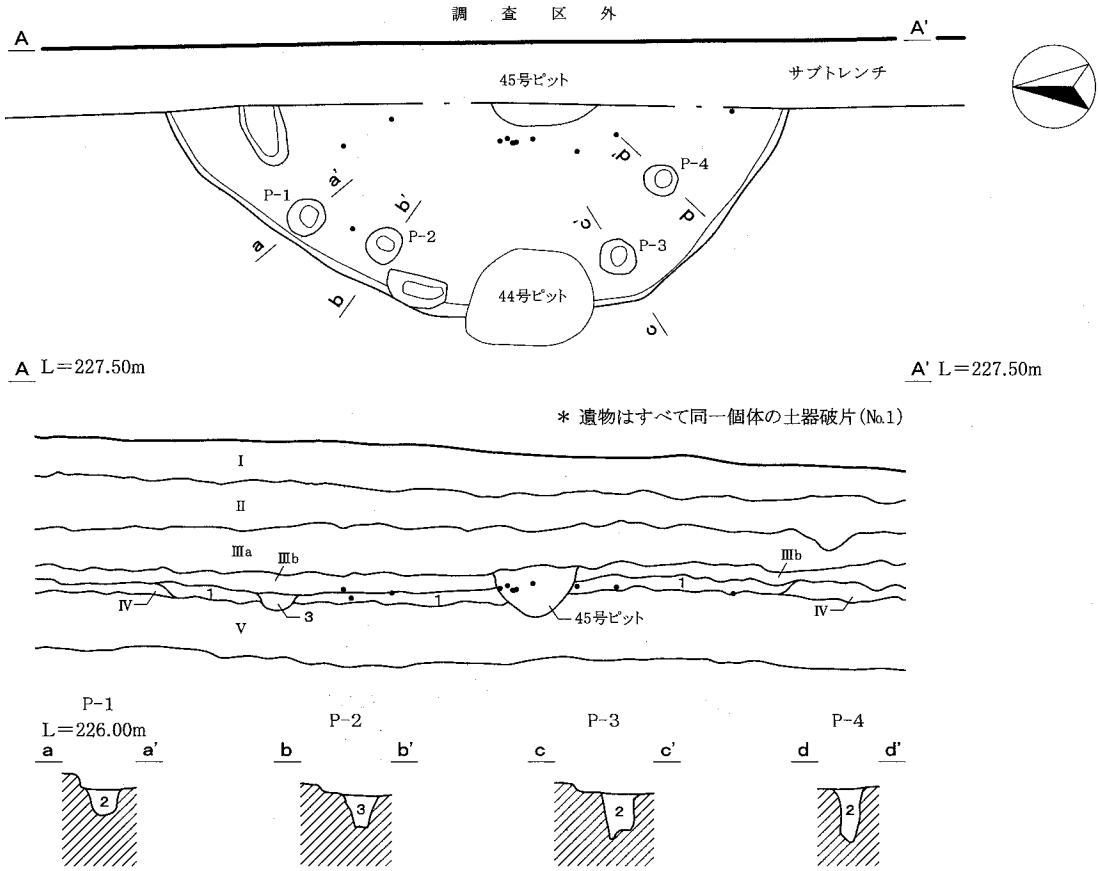
遺　物　　なし。

時　期　　伴出遺物などに有力な手がかりがなく、不明としておく。

Tab. 2　土坑・ピット観察表

遺構名	位　置	平面形	断面形	規模（長軸×短軸）	深　度	備　　考
P－1	X6～7・Y74～75	楕円形	凹レンズ形	80 × 68	14	縄文土器の細片1点が出土。
P－2	X7・Y73	円形	凹レンズ形	53 × 52	9	
P－3	X6・Y72	楕円形か	凹レンズ形	56 × 46	16	
P－4	X6・Y71	楕円形か	U字形	70 × 58	39	縄文土器の細片1点が出土。
P－5	X6・Y71	円形	凹レンズ形	52 × 50	9	
P－6	X6・Y71	楕円形	凹字形	69 × 66	36	
P－7	X5・Y66～67	不整形	凹レンズ形	46 × 42	13	
P－8	X5・Y64	円形	凹レンズ形	46 × 43	14	
P－9	X5・Y61	円形	漏斗状	46 × 40	20	
P－10	X5・Y60	楕円形	U字形	42 × 35	34	
P－11	X5・Y60	円形	U字形	34 × 30	23	
P－12	X5・Y60	楕円形	U字形	34 × 25	29	
P－13	X5・Y60	円形	U字形	35 × 34	57	
P－14	X5・Y60	円形	U字形	43 × 42	59	
P－15	X5・Y58～59	円形	U字形	55 × 51	56	
P－16	X5・Y58	楕円形	凹レンズ形	72 × 51	23	
P－17	X5・Y58	円形	凹字形	49 × 48	30	
P－18	X5・Y58	円形か	U字形	36 × 34	13	
P－19	X5・Y57	楕円形	U字形	30 × 24	30	
P－20	X5・Y57	円形	U字形	54 × 51	25	
P－21	X5・Y57	円形か	U字形	44 × 40	59	
P－22	X5・Y57	円形か	U字形	34 ×－	36	
P－23	X5・Y56	楕円形	U字形	69 × 48	43	土師器坏1点、同甕2点が出土。
P－24	X5・Y55～56	楕円形	U字形	36 × 24	36	
P－25	X5・Y53	楕円形	漏斗状	68 × 51	22	1号溝と重複。土師器甕3点、須恵器坏2点が出土。
P－26	X5・Y53	楕円形	浅い凹字形	94 × 75	23	土師器坏2点、同甕2点、須恵器坏1点が出土。
P－28	X5・Y51	円形	U字形	68 × 67	31	
P－29	X5・Y51	楕円形か	凹字形	58 ×－	39	礫1点が出土。
P－30	X5・Y50	円形か	U字形	65 ×－	51	土師器甕1点が出土。
P－31	X5・Y50	円形	浅い凹字形	43 × 43	20	
P－32	X5・47	円形	U字形	53 × 49	45	
P－33	X5・Y41	円形	凹レンズ形	58 × 52	15	
P－34	X5・Y41	円形	凹字形	48 × 45	29	
P－35	X5・Y41	楕円形	U字形	47 × 40	28	
P－36	X5・Y39～40	隅丸長方形	浅い凹字形	134 × 112	22	土師器坏1点が出土。
P－37	X5・Y39	楕円形	U字形	52 × 43	61	
P－38	X4・Y39	円形	凹字形	44 × 41	23	
P－39	X5・Y37	楕円形	U字形	73 × 53	38	
P－40	X5・Y37	楕円形	凹字形	68 × 46	36	
P－41	X5・Y31	円形	U字形	40 × 38	65	
P－42	X5・Y31	楕円形	凹字形	44 × 38	23	
P－43	X5・Y30	楕円形	U字形	36 × 34	43	
P－45	X5・Y53～54	楕円形か	浅い凹字形か	－	〔14〕	
P－46	X5・Y52	円形	凹字形	101 × 98	46	
P－47	X5・Y51	楕円形	凹字形	98 × 78	83	
P－49	X4～5・Y50	円形	凹字形	90 ×－	25	
P－50	X4～5・Y50	不整形	凹字形	68 × 58	27	

1号竪穴状遺構



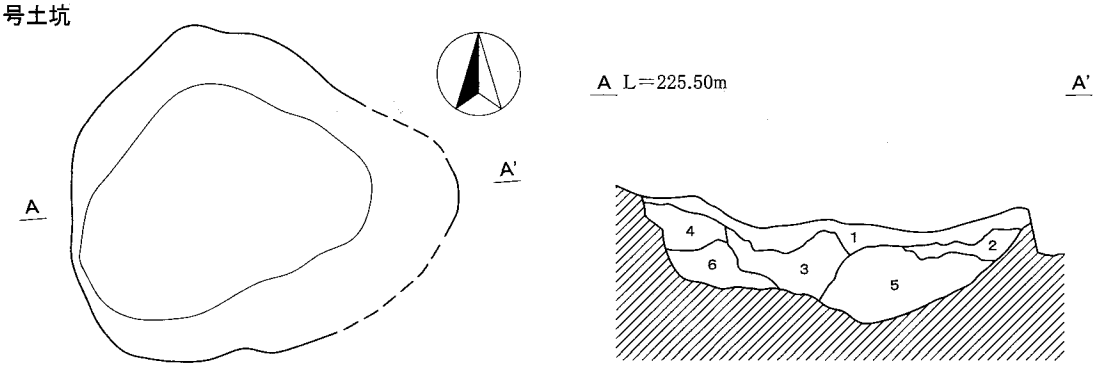
1 暗褐色土　径3mm前後のローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

2 暗褐色土　径5mm前後のローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

3 暗褐色土　径5mm前後のローム粒および炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

0　2m
S=1/60

1号土坑



1 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とし、炭化物粒を微量含む。締まり強く、粘性は普通。土器破片を包蔵。

2 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。黒褐色土少量、径10mmあまりの焼土ブロックおよび炭化物粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

3 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とし、黒褐色土が少量混入。ロームブロックを中量、炭化物粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

4 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。締まり強く、粘性は普通。

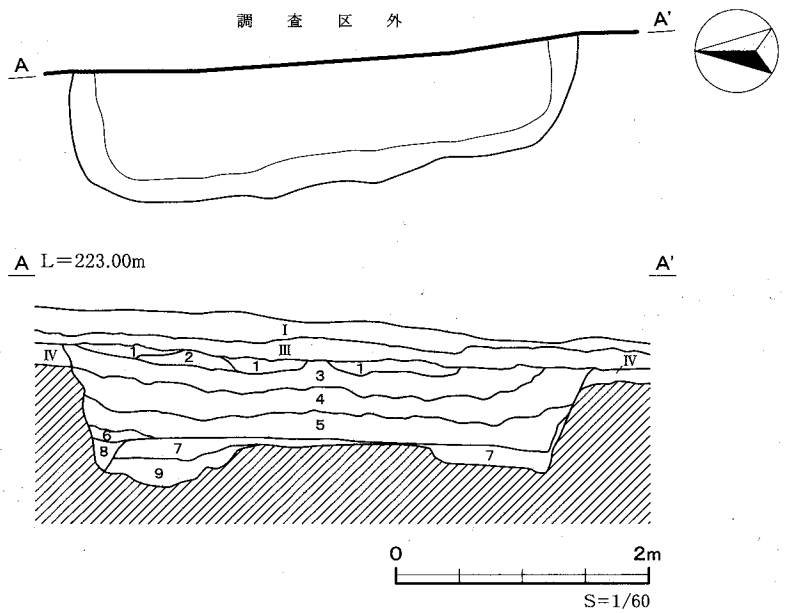
5 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。ローム粒を中量、炭化物粒を微量含む。締まり強く、粘性は普通。

6 暗黄褐色土　ロームブロックおよび黒褐色土を主体とする。焼土粒および炭化物粒を中量含む。締まり強く、粘性は普通。

0　2m
S=1/40

Fig. 5　1号竪穴状遺構、1号土坑

H-1号住居跡



1 灰褐色土　ローム粒およびFP粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

2 黒褐色土　FP粒を多量、ローム粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

3 黒褐色土　ローム粒およびFP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

4 黒褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

5 黒褐色土　ローム粒およびローム小ブロックを中量、FP粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性は普通。

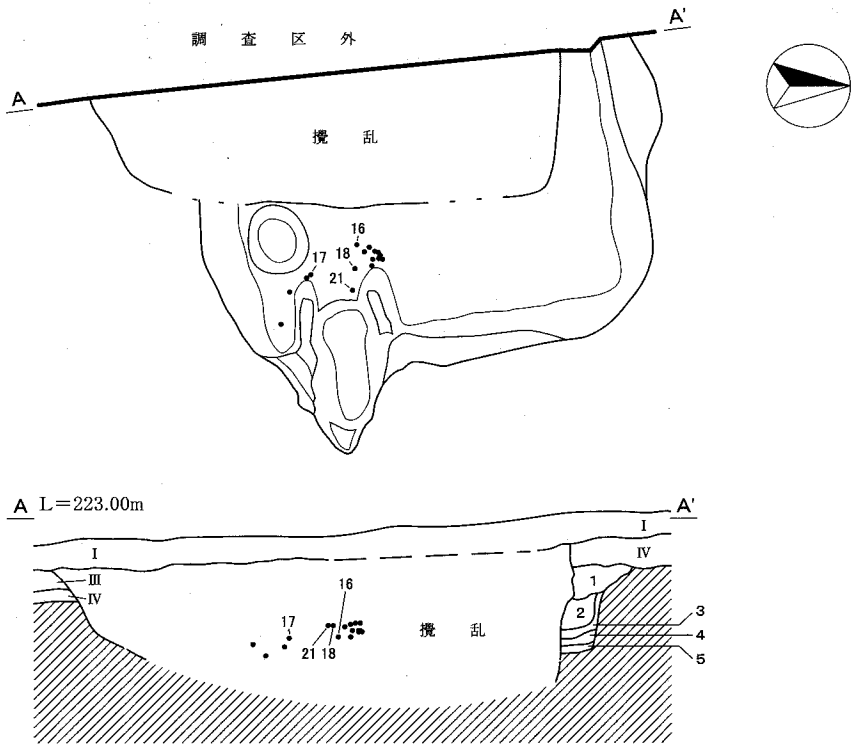
6 灰黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まり弱く、粘性はやや弱い。

7 暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。締まり、粘性とも強い。床土とみられる。

8 暗褐色土　ロームブロックを中量含む。締まり強く、粘性は普通。

9 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とし、暗褐色土が少量混入。締まり、粘性とも強い。

H-2号住居跡(1)



1 黒褐色土　ロームブロックおよびFP粒を多量に含む。締まり弱く、粘性は普通。

2 黒褐色土　ローム粒およびFP粒を少量含む。締まり弱く、粘性は普通。

3 黒褐色土　径30mm以下のロームブロックを多量、FP粒を少量含む。締まり弱く、粘性は普通。

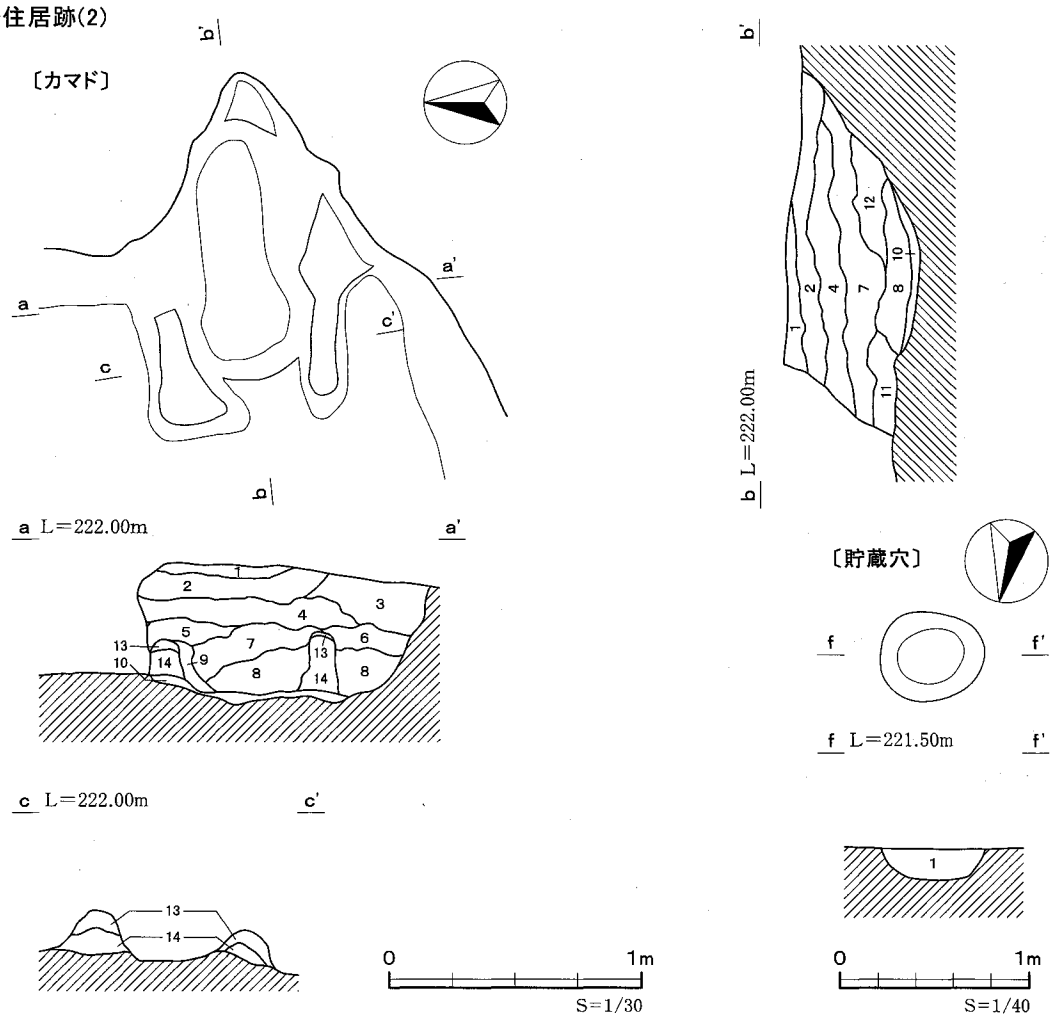
4 灰黄褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まり弱く、粘性は普通。

5 灰黄褐色土　径30mm前後のロームブロックを多量に含む。締まり弱く、粘性は普通。

0　2m
S=1/60

Fig. 6　H-1・2号住居跡

H-2号住居跡(2)



カマド

1 黒褐色土　FP粒を多量、焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は弱い。

2 黒褐色土　FP粒を多量、ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は弱い。

3 黒褐色土　ローム粒およびFP粒を中量、焼土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は弱い。

4 黒褐色土　ローム粒および焼土粒を多量、黒褐色の粘土ブロックを中量、FP粒を少量含む。締まり強く、粘性は弱い。

5 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロックを主体とする。構築土の崩落によるものとみられるローム粒および焼土粒を多量に含む。締まり強く、粘性はやや弱い。

6 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロックを主体とする。構築土の崩落によるものとみられるローム粒および焼土粒を中量含む。締まり強く、粘性はやや弱い。

7 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロックを主体とする。構築土の崩落によるものとみられるローム粒を少量、焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は弱い。

8 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロックを主体とする。構築土の崩落によるものとみられるローム粒および焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性はやや弱い。

9 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロックを主体とする。構築土の崩落によるものとみられる径10mm未満の焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

10 黒褐色土　径50mm前後で黒褐色の粘土ブロック、および径30mm前後の焼土ブロックを主体とする。FP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

11 黒褐色土　黒褐色の粘土ブロック、焼土ブロック、および灰白色の粘土ブロックを主体とする。締まりやや強く、粘性は普通。

12 黒褐色土　黒褐色の粘土ブロックとロームブロックを主体とする。焼土ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

13 暗黄褐色土　カマド袖部。粘土ブロックを主体とし、FP粒および径5mm前後の焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性は弱い。

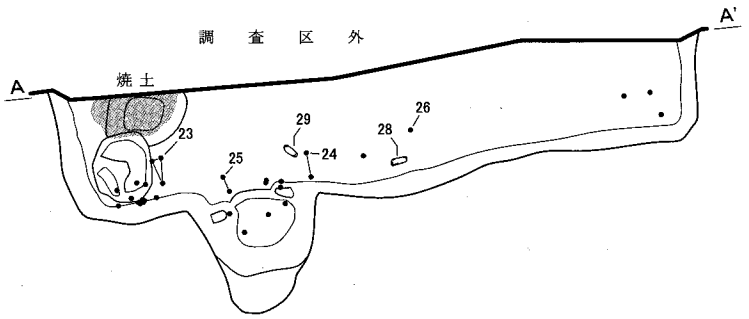
14 暗褐色土　カマド袖部。暗黄褐色土が少量混入。粘土ブロックを中量、FP粒および径5mm前後の焼土粒を微量含む。締まり強く、粘性は弱い。

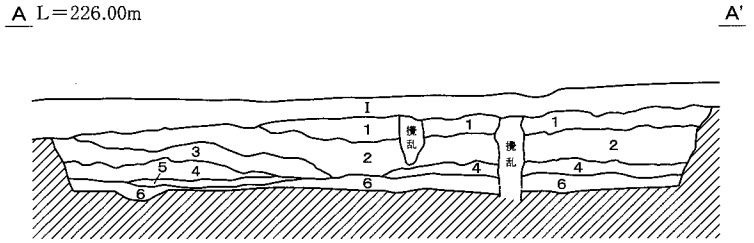
貯蔵穴

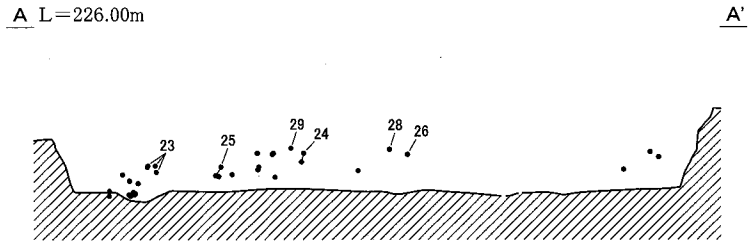
1 暗褐色土　径5mm前後のローム粒を少量、径3～5mmの炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

Fig. 7　H-2号住居跡

H-3号住居跡

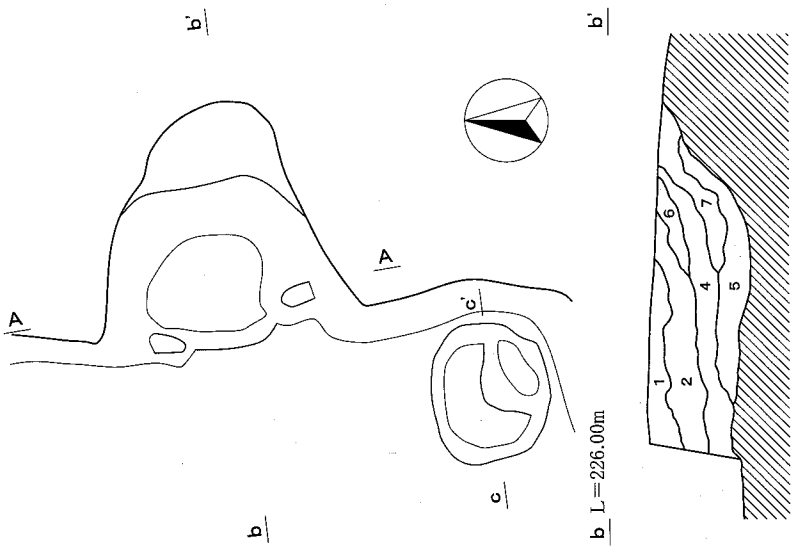


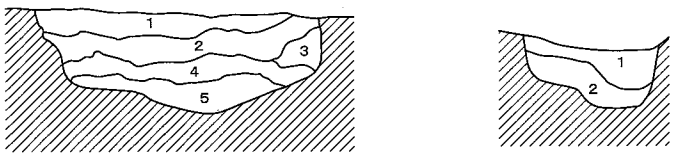




0　2m
S=1/60

〔カマド・貯蔵穴〕





1 黒褐色土　FP粒を多量に含む。締まり弱く、粘性は普通。

2 黒褐色土　ローム粒およびFP粒を多量に含む。締まり弱く、粘性は普通。

3 黒褐色土　径30mm前後のロームブロックおよびローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まり弱く、粘性は普通。

4 灰黄褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

5 灰黄褐色土　径30mm前後のロームブロックおよびローム粒を多量、炭化物粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

6 灰黄褐色土　ロームブロックを主体とし、黒褐色土が少量混入。焼土粒を少量含む。締まりごく強く、粘性は普通。床土とみられる。

カマド

1 褐灰色土　焼土粒、炭化物粒、およびFP粒をそれぞれ少量含む。締まり強く、粘性は普通。

2 黒褐色土　焼土粒および炭化物粒を中量、FP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

3 褐灰色土　径30mm前後のロームブロックを多量に含む。締まりやや強く、粘性は普通。

4 褐灰色土　径50mm以下のロームブロックを多量、焼土粒および炭化物粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

5 褐灰色土　径30mm前後のロームブロックを多量、焼土ブロックおよび焼土粒を中量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

6 褐灰色土　ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

7 赤褐色土　径50mm以下の焼土ブロックを主体とし、褐灰色土が混入。締まり、粘性とも弱い。

貯蔵穴

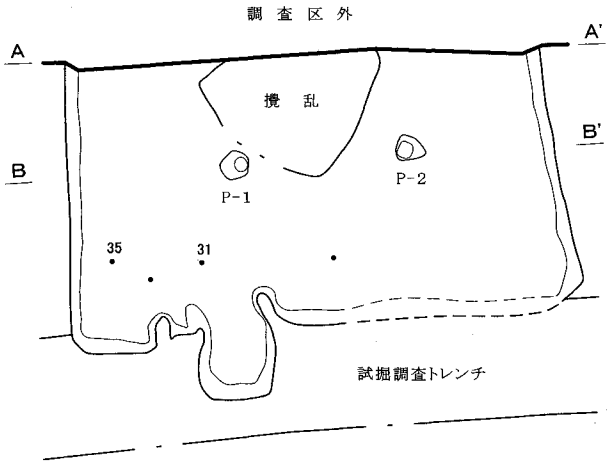
1 褐色土　焼土中量および暗褐色土少量が混入。径5mm前後のローム粒および炭化物粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

2 暗褐色土　暗黄褐色土が少量混入。径3～5mmの炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

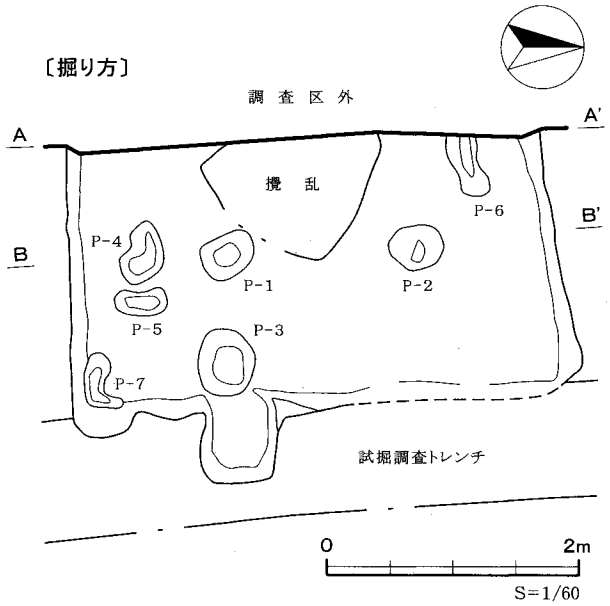
0　1m
S=1/30

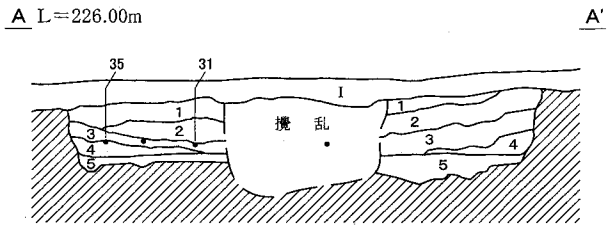
Fig. 8　H-3号住居跡

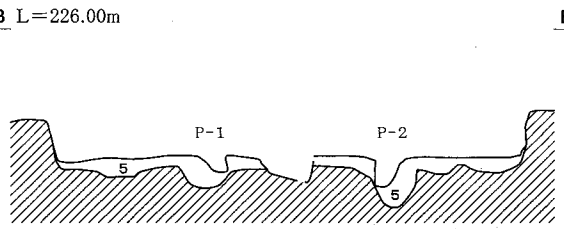
〔生活面〕



〔掘り方〕







1 暗褐色土　ローム粒およびFP粒を少量含む。締まり弱く、性は普通。

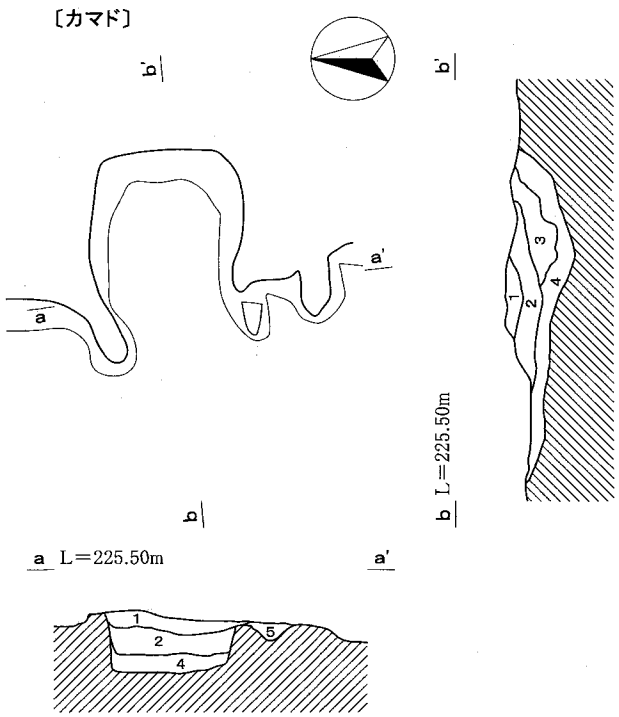
2 暗褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まり弱く、粘性は普通。

3 黒褐色土　FP粒を多量、多径30mm前後のロームブロックおよびローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

4 灰黄褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

5 灰黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まり、粘性とも強い。床土とみられる。

〔カマド〕



1 灰黄褐色土　ローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

2 灰黄褐色土　ローム粒を多量、焼土粒、炭化物粒、およびFP粒をそれぞれ少量含む。締まり強く、粘性は普通。

3 灰黄褐色土　径30mm以下のロームブロックと黒褐色土を主体とする。締まりやや強く、粘性は普通。

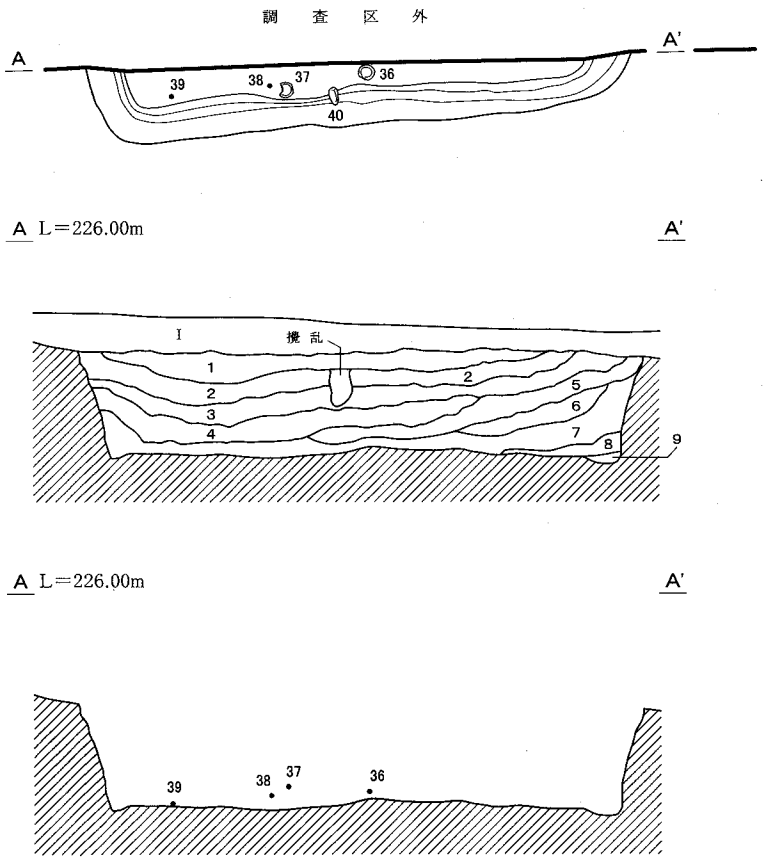
4 赤褐色土　径30mm前後の焼土ブロックを主体とし、灰黄褐色土が少量混入。ロームブロックおよびFP粒を少量含む。締まり強く、粘性は普通。

5 灰黄褐色土　焼土粒および灰白色の粘土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

0　1m
S=1/30

Fig. 9　H-4号住居跡

H-5号住居跡



1 褐灰色土　FP粒を多量、ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

2 褐灰色土　FP粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

3 暗褐色土　ロームブロック、ローム粒、およびFP粒を多量に含む。締まりやや強く、粘性は普通。

4 暗褐色土　ローム粒およびFP粒を多量に含む。締まりやや強く、粘性は普通。

5 黒褐色土　FP粒を多量、ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

6 灰黄褐色土　径50mm以下のロームブロックおよびローム粒を多量、FP粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

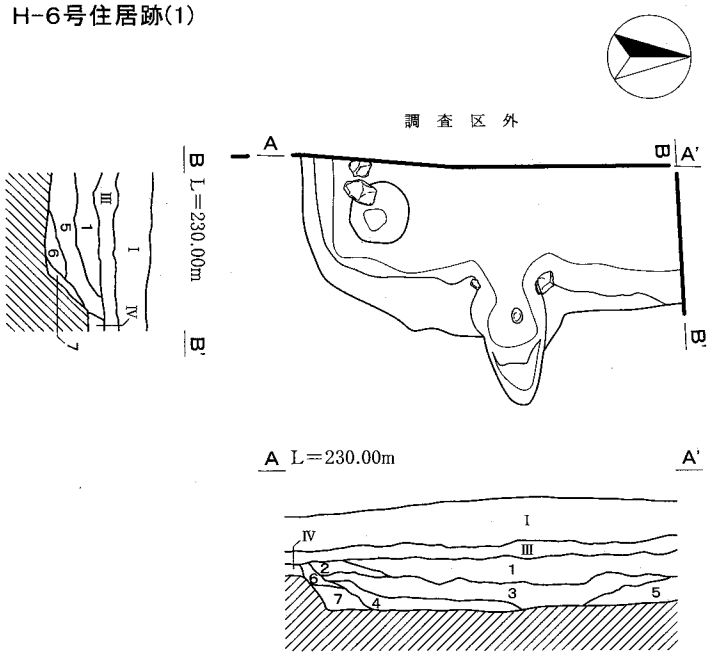
7 灰黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まりやや弱く、粘性はやや弱い。。

8 暗褐色土　ローム粒を多量に含む。締まりやや弱く、粘性は普通。

9 灰黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まりやや強く、粘性は普通。

0　2m
S=1/60

H-6号住居跡(1)



1 黒褐色土　黒褐色土が中量混入。径8mm以下のFP粒少量、ロームブロックおよび径3mm前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

2 暗褐色土　黒褐色土が中量混入。径5mm前後のローム粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

3 暗褐色土　黒褐色土が少量混入。径1mm前後のFP粒、焼土粒、および炭化物粒をそれぞれ微量含む。締まり、粘性とも普通。

4 暗褐色土　径3mm前後のローム粒、径1mm前後のFP粒、および焼土粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

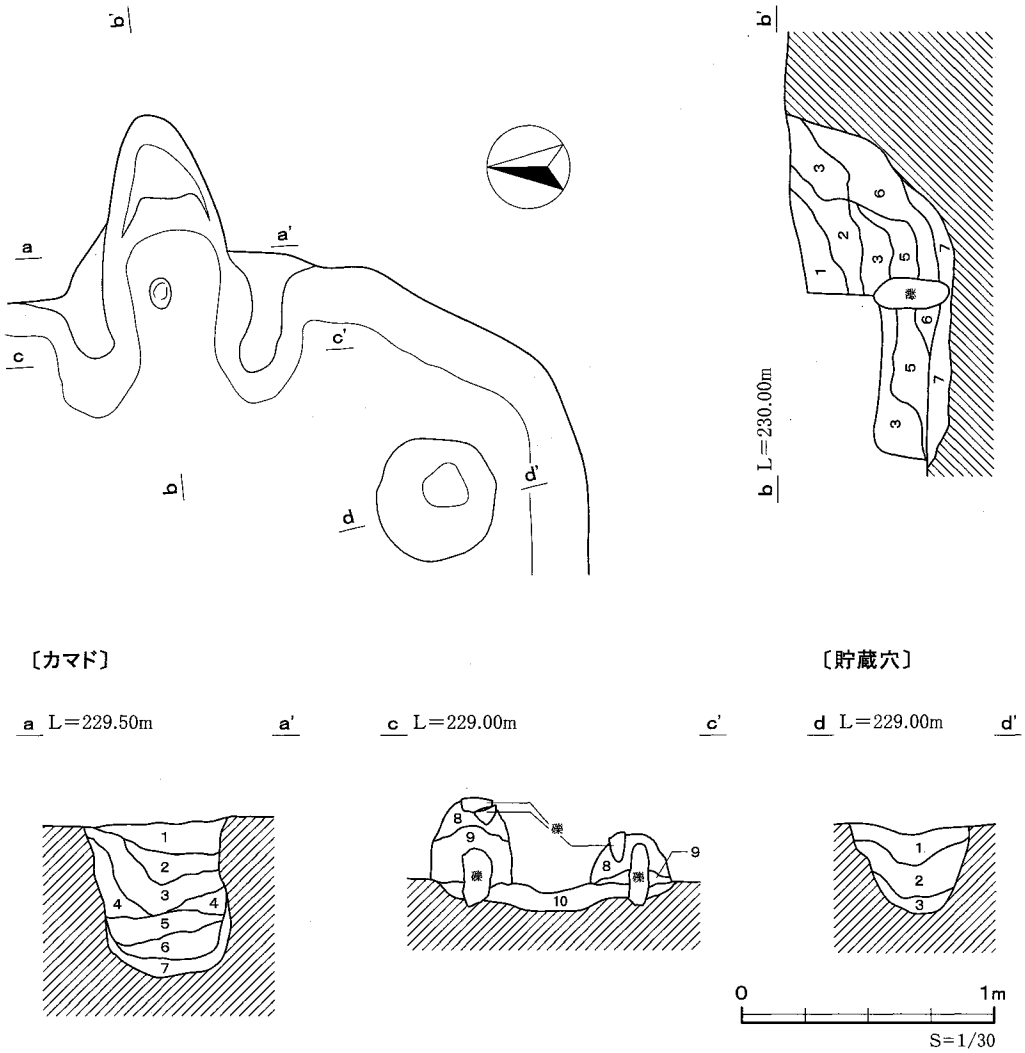
5 暗褐色土　径5～8mmのローム粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

6 暗褐色土　黒褐色土が中量混入。径5～8mmのローム粒および径1mm前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

7 暗黄褐色土　ロームブロックおよび径1mm前後のローム粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

Fig.10　H-5・6号住居跡

H-6号住居跡(2)



カマド

1 暗黄褐色土　焼土粒および粘土ブロックを中量、径8㎜以下のFP粒および径3㎜以下のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

2 暗褐色土　粘土ブロックを主体とする。焼土粒を中量、径3㎜以下のローム粒を少量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

3 暗褐色土　粘土ブロックを主体とする。焼土粒を多量、径5㎜以下のローム粒および径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

4 暗黄褐色土　焼土粒および粘土ブロックを中量、径3㎜前後のFP粒を少量、径5㎜以下のローム粒を微量含む。締まりやや弱く、粘性は普通。

5 暗黄褐色土　焼土粒およびロームブロックを中量、径1㎜前後のFP粒および径1㎜前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性ともやや弱い。

6 暗黄褐色土　焼土粒およびロームブロックを中量、径3㎜前後のFP粒を少量、径1㎜前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

7 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。径2㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

8 灰黄褐色土　径3㎜前後のFP粒および径3～5㎜の焼土粒を少量含む。締まり強く、粘性は弱い。

9 暗褐色土　焼土が少量混入。締まり普通、粘性は弱い。

10 暗黄褐色土　暗褐色土が少量混入。粘土ブロックを中量、FP粒および径5mm前後の焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は弱い。

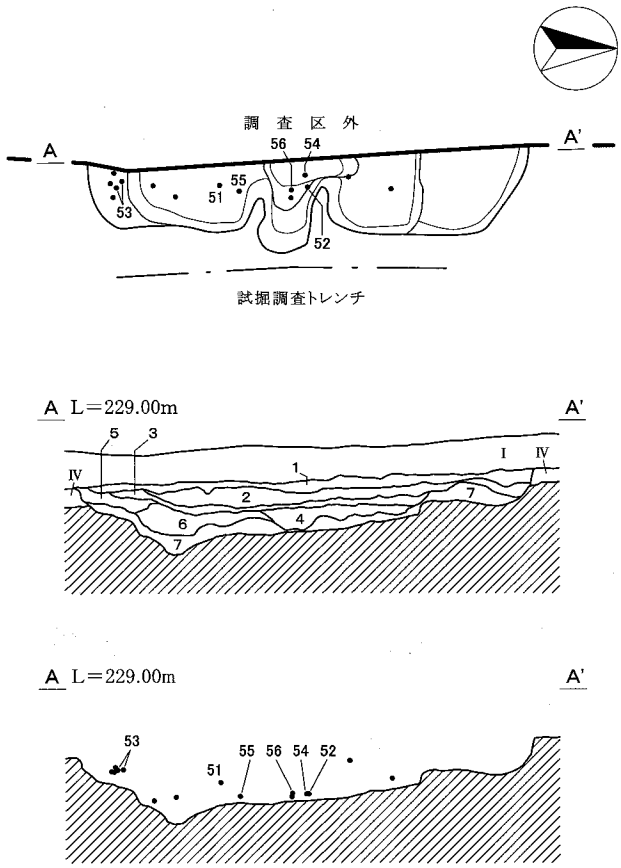
貯蔵穴

1 黒褐色土　暗褐色土が少量混入。径5㎜前後のローム粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

2 暗褐色土　暗黄褐色土が少量混入。径3～5mmの炭化物粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

3 暗黄褐色土　暗褐色土が微量混入。部分的に被熱の形跡あり。締まり強く、粘性は弱い。

Fig.11　H-6号住居跡



1 暗褐色土　径3㎜前後のローム粒を中量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

2 褐色土　径7㎜以下のローム粒を中量、径3㎜以下のFP粒を少量含む、締まり、粘性とも普通。

3 暗褐色土　径3㎜前後のローム粒を中量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まりやや弱く、粘性は普通。

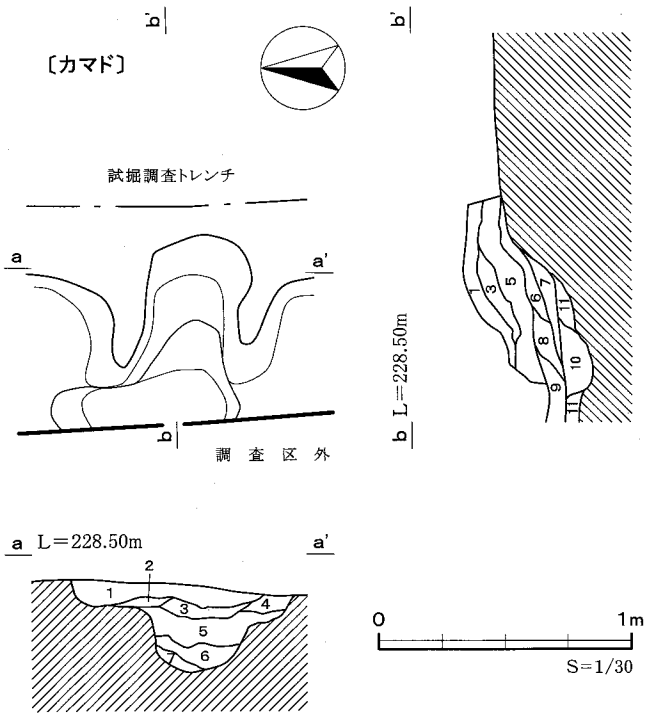
4 暗黄褐色土　焼土が中量混入。径1㎜前後のローム粒および径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

5 暗褐色土　径5㎜以下のローム粒および径5㎜以下のFP粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

6 暗褐色土　ロームブロックおよび径5㎜以下のローム粒を少量、径3㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

7 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。締まり、粘性とも普通。

0　2m
S=1/60



1 暗褐色土　径8㎜以下のFP粒少量、ロームブロック、径3㎜前後のローム粒、および焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

2 暗褐色土　径5㎜前後のローム粒および焼土を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

3 暗褐色土　焼土粒および炭化物粒を少量、径7㎜前後のローム粒および径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

4 暗黄褐色土　焼土が中量混入。径3㎜前後のローム粒および径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

5 暗黄褐色土　ロームブロックおよび焼土粒を中量、径1㎜前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

6 暗黄褐色土　暗褐色土が少量混入。締まり強く、粘性は弱い。

7 暗褐色土　暗黄褐色土が少量混入。径1～3㎜の焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性はやや弱い。

8 暗黄褐色土　暗褐色土が微量混入。締まり強く、粘性は弱い。

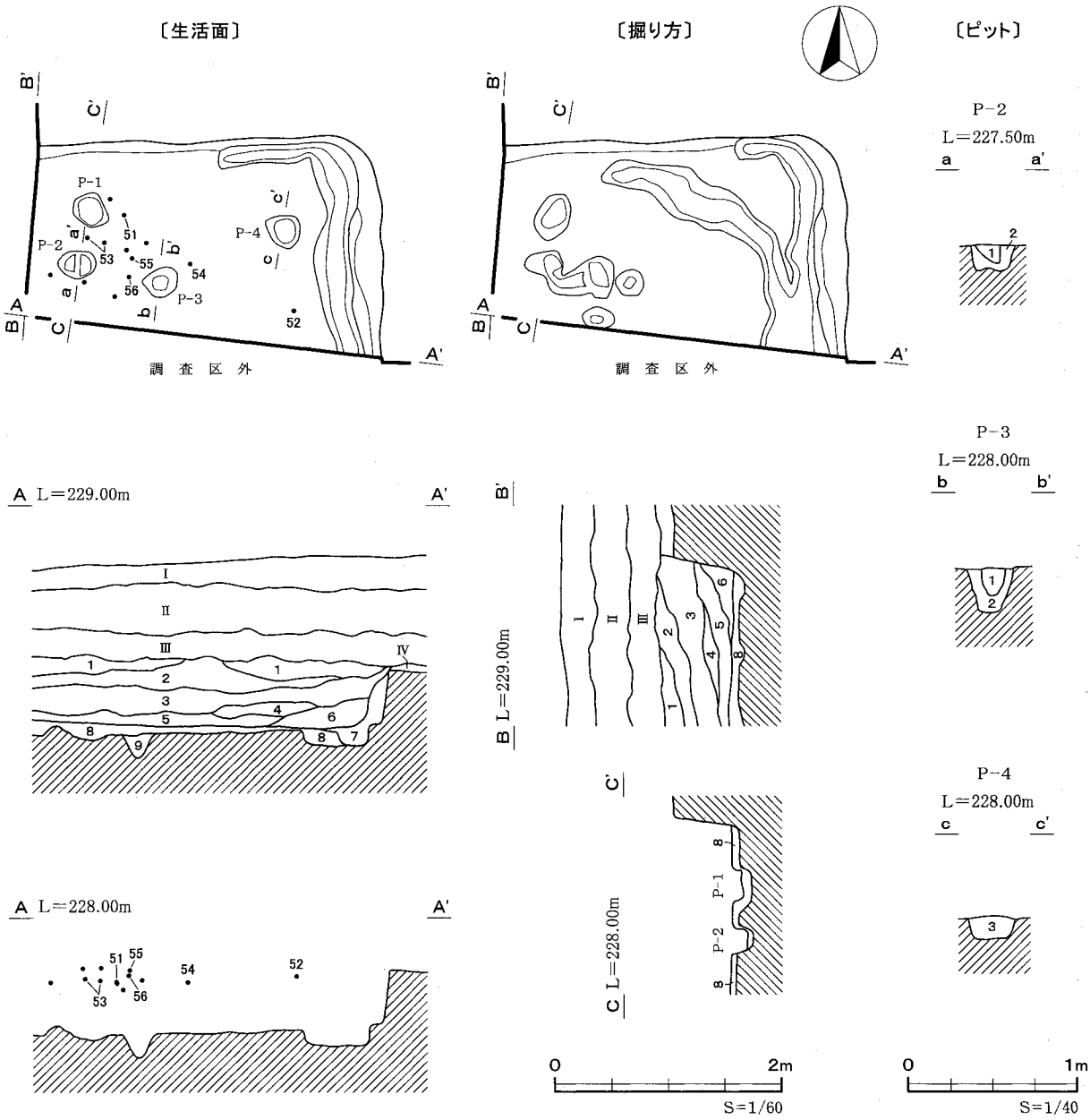
9 暗褐色土　暗黄褐色土が微量混入。径1～3㎜の焼土粒を微量含む。締まりやや強く、粘性はやや弱い。

10 赤褐色土　暗褐色土が少量混入。締まり強く、粘性は弱い。

11 暗黄褐色土　焼土粒および灰白色の粘土粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

0　1m
S=1/30

Fig.12　H-7号住居跡



8号住居跡

1 暗褐色土　径3㎜前後のローム粒を中量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まりやや弱く、粘性は普通。

2 黒褐色土　径3㎜前後のローム粒を中量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

3 黒褐色土　径7㎜以下のローム粒を中量、径3㎜以下のFP粒を少量含む、締まり、粘性とも普通。

4 黒褐色土　径3㎜前後のローム粒を中量、径1㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

5 暗褐色土　径1㎜前後のローム粒および焼土粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

6 暗褐色土　径5㎜以下のローム粒および径5㎜以下のFP粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

7 暗褐色土　ロームブロックおよび径5㎜以下のローム粒を少量、径3㎜前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

8 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とする。締まり強く、粘性はやや強い。床土とみられる。

9 暗褐色土　径5㎜前後のローム粒を中量含む。締まり、粘性とも普通。

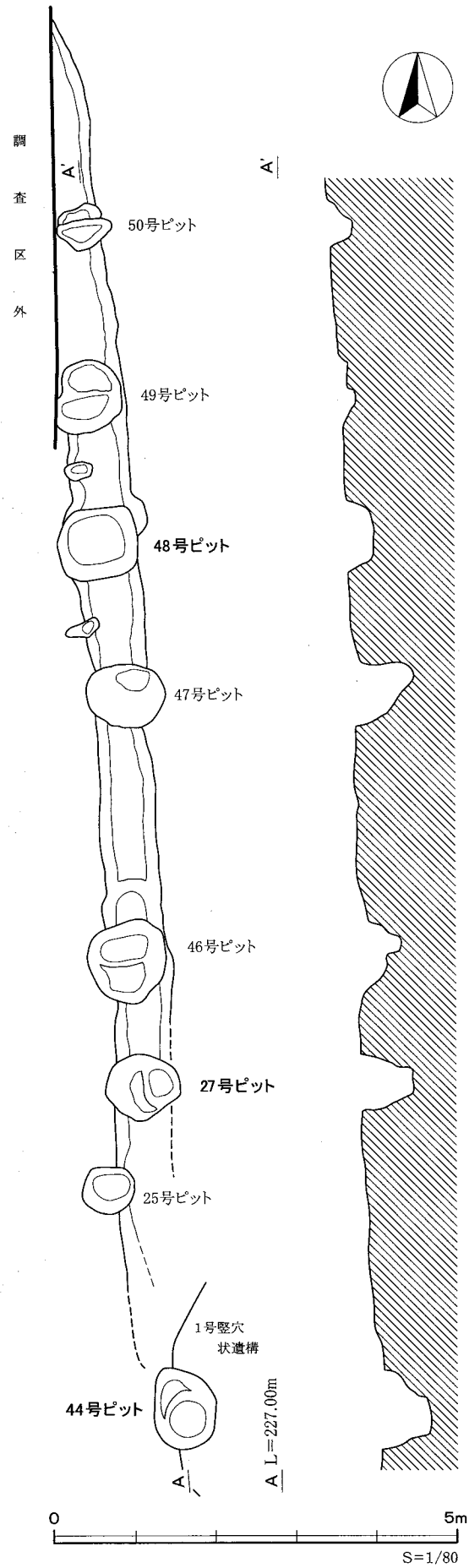
8号住居跡 ピット共通

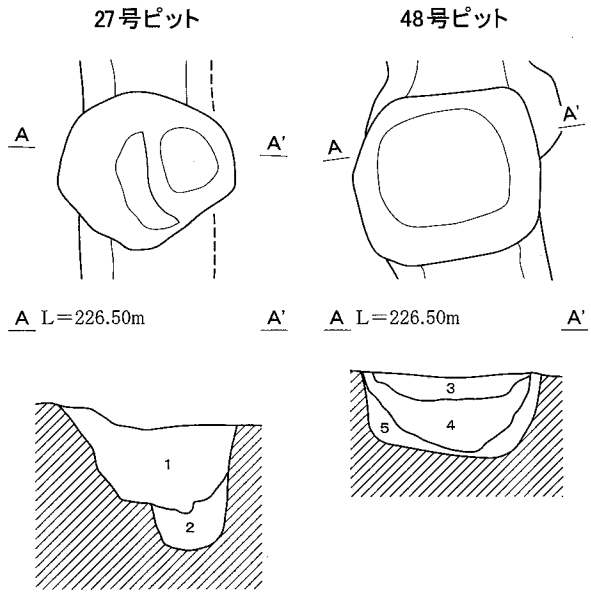
1 暗褐色土　径5㎜前後のローム粒を中量含む。締まり、粘性とも普通。

2 暗褐色土　径3㎜前後のローム粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。

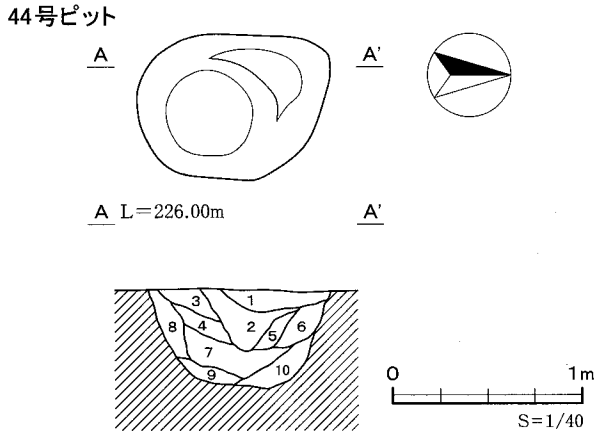
3 暗褐色土　ロームブロックおよび径5㎜前後のローム粒を少量含む。締まり、粘性ともやや強い。

Fig.13　H-8号住居跡



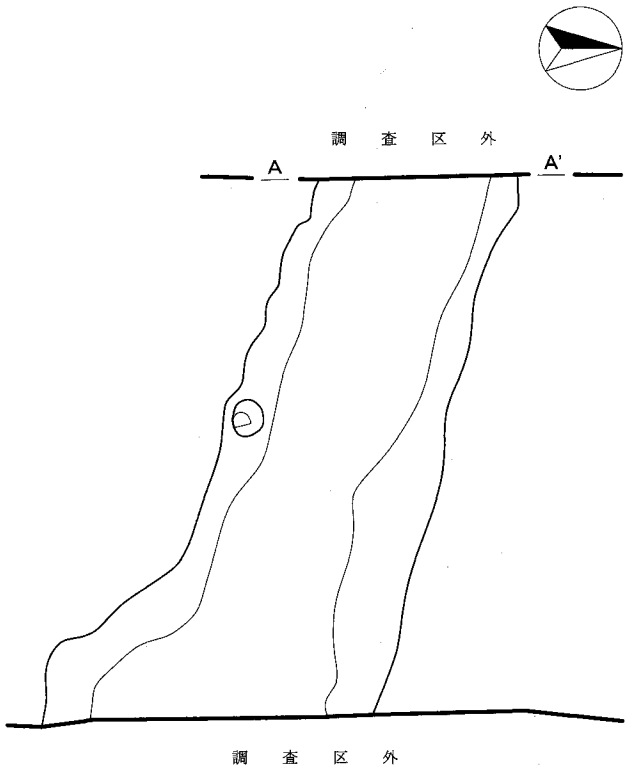


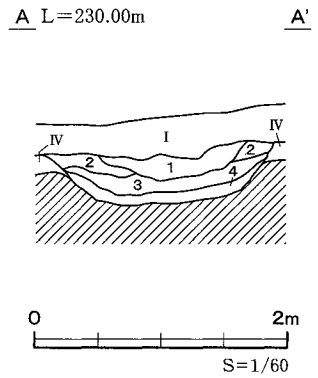
1 暗褐色土　黒褐色土が微量混入。径5mm前後のFP粒を少量、径3mm前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。
2 暗褐色土　径3mm前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。
3 暗褐色土　灰褐色土が微量混入。締まり、粘性ともやや弱い。
4 暗褐色土　ロームブロックおよび径1mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。
5 暗褐色土　径1mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。



1 暗褐色土　黒色土が少量混入。径8mm前後のローム粒および径5mm以下のFP粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。
2 暗褐色土　黒色土が少量混入。径5mm前後のローム粒および径5mm前後のFP粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。
3 暗褐色土　黒色土が少量混入。径3mm前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。
4 暗褐色土　径1mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。
5 暗黄褐色土　ロームブロックおよび径3mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。
6 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とし、暗褐色土が少量混入。径3mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。
7 暗褐色土　径5mm前後のローム粒および径5mm前後のFP粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。
8 暗褐色土　径7mm前後のローム粒を少量含む。締まり、粘性とも普通。
9 暗褐色土　ロームブロックが少量混入。径3mm前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。
10 暗黄褐色土　ロームブロックを主体とし、暗褐色土が中量混入。径3mm前後のローム粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

Fig.14　1号溝状遺構、27、44、48 号ピット





1 暗褐色土　径1mm前後のローム粒を少量、径1mm前後のFP粒を微量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

2 暗褐色土　径1mm前後のローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性は普通。

3 暗褐色土　径1mm前後のローム粒を微量含む。締まり、粘性とも普通。

4 暗黄褐色土　ロームブロックおよび径5mm前後のローム粒を主体とする。締まりやや強く、粘性は普通。

Fig.15　2号溝状遺構

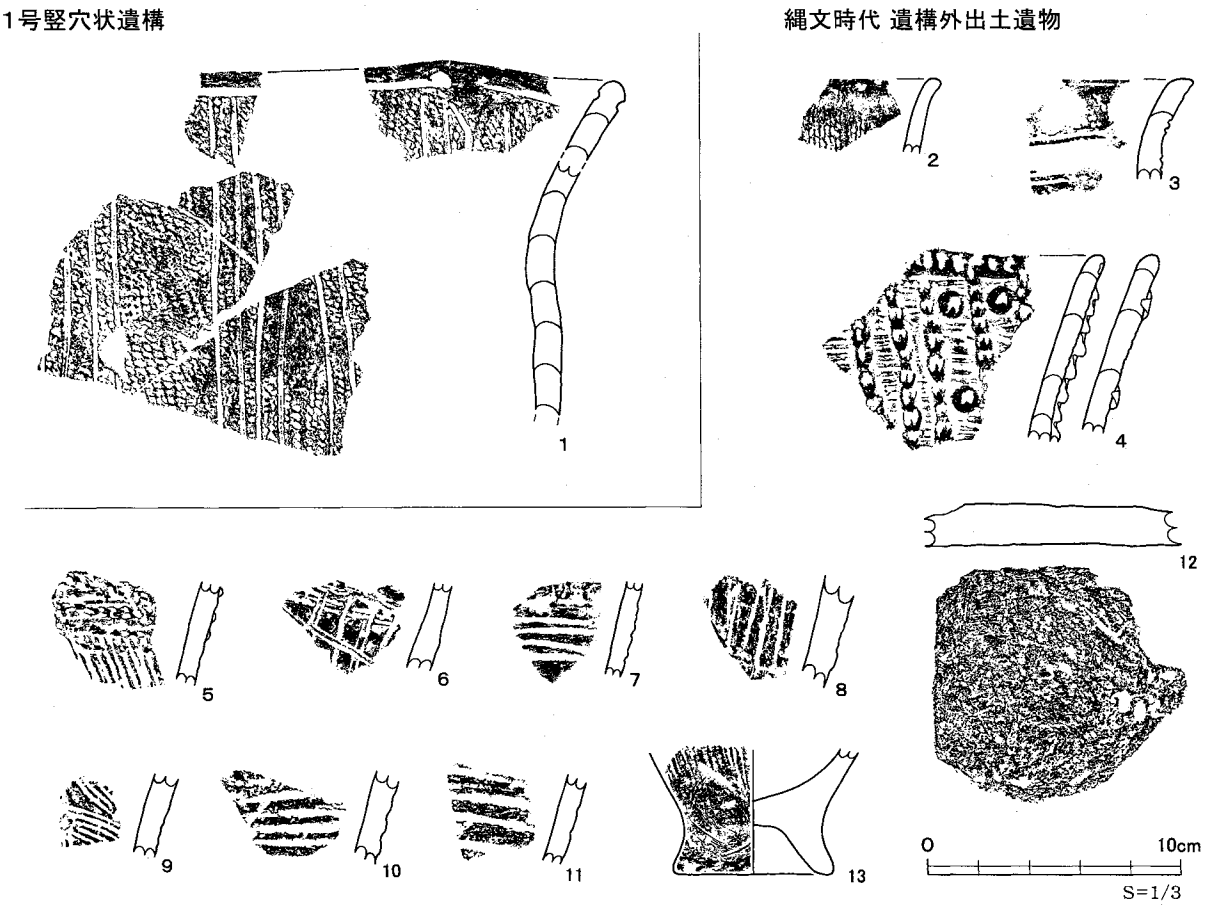


Fig.16　縄文時代の遺物

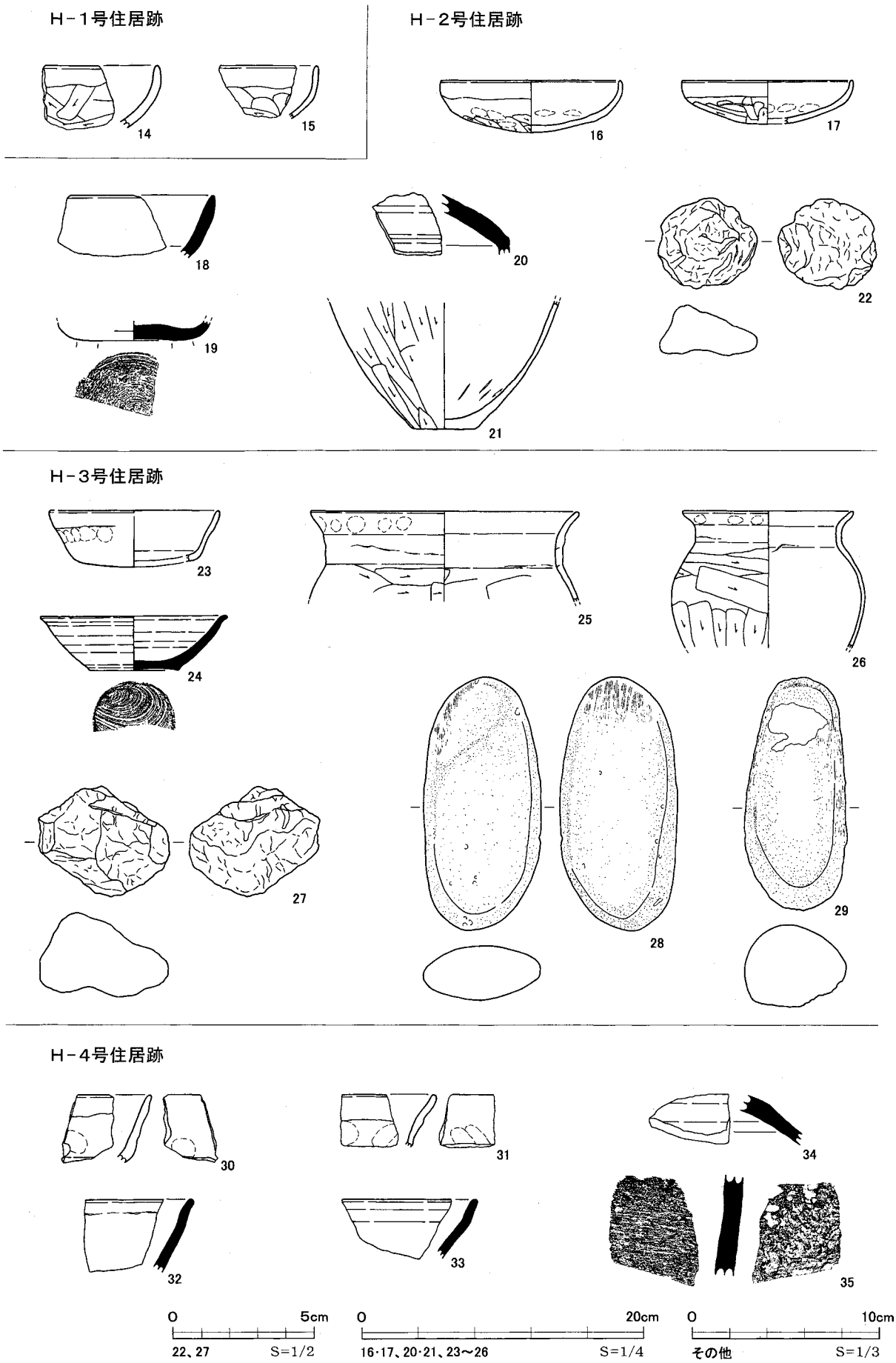
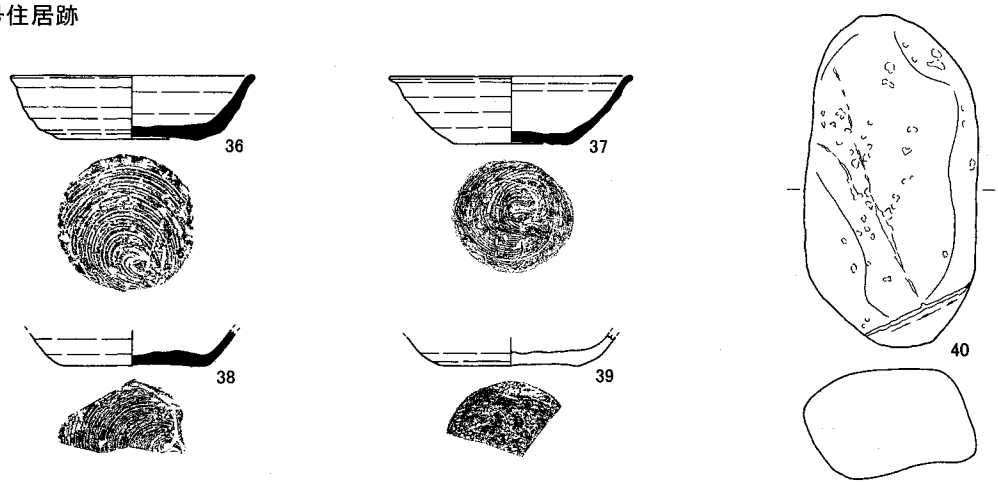
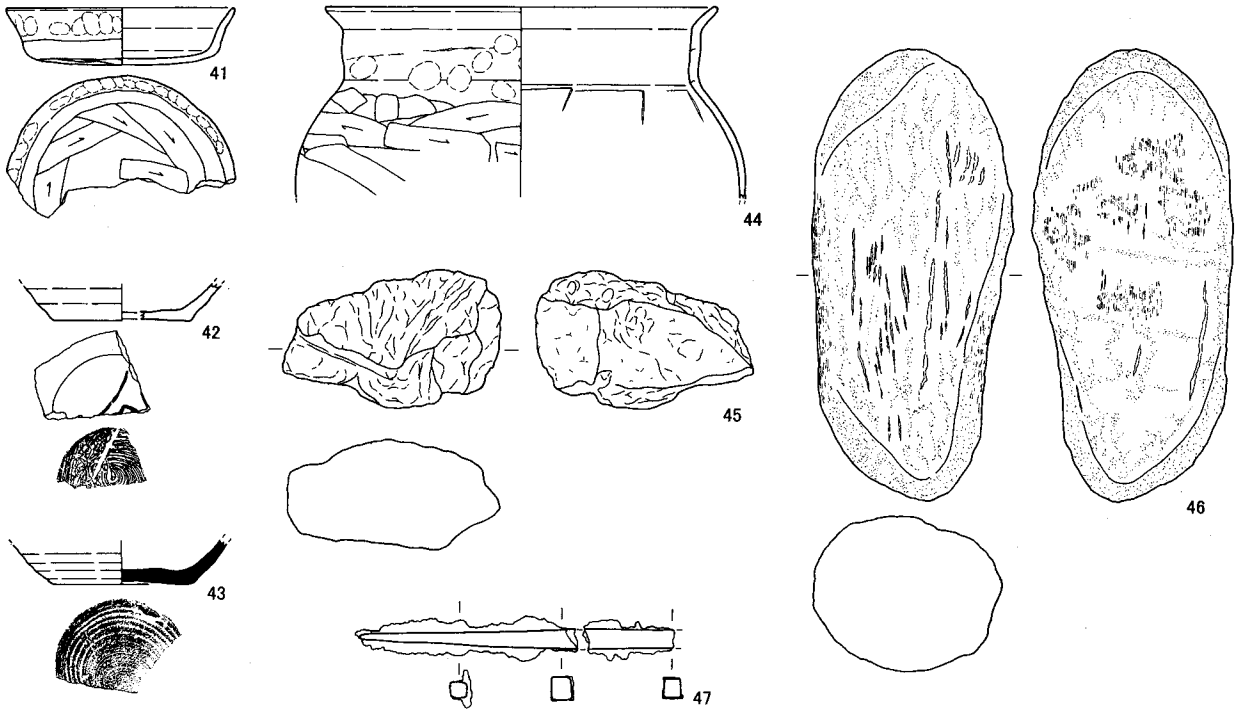


Fig.17　H-1～4号住居跡出土遺物

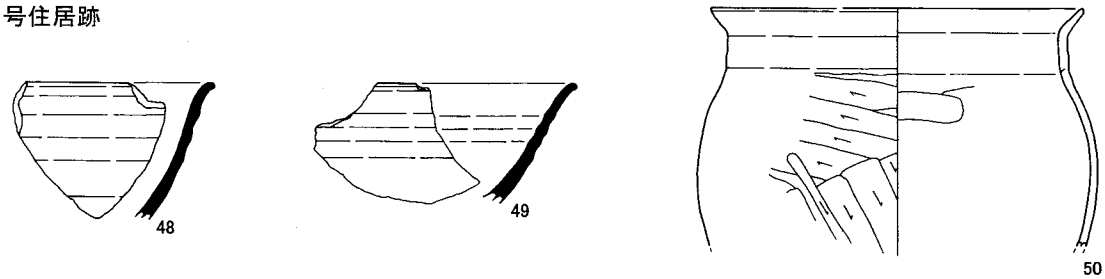
H－5号住居跡



H－6号住居跡



H－7号住居跡



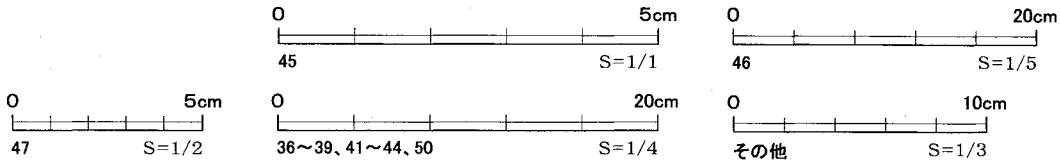


Fig.18　H－5～7号住居跡出土遺物

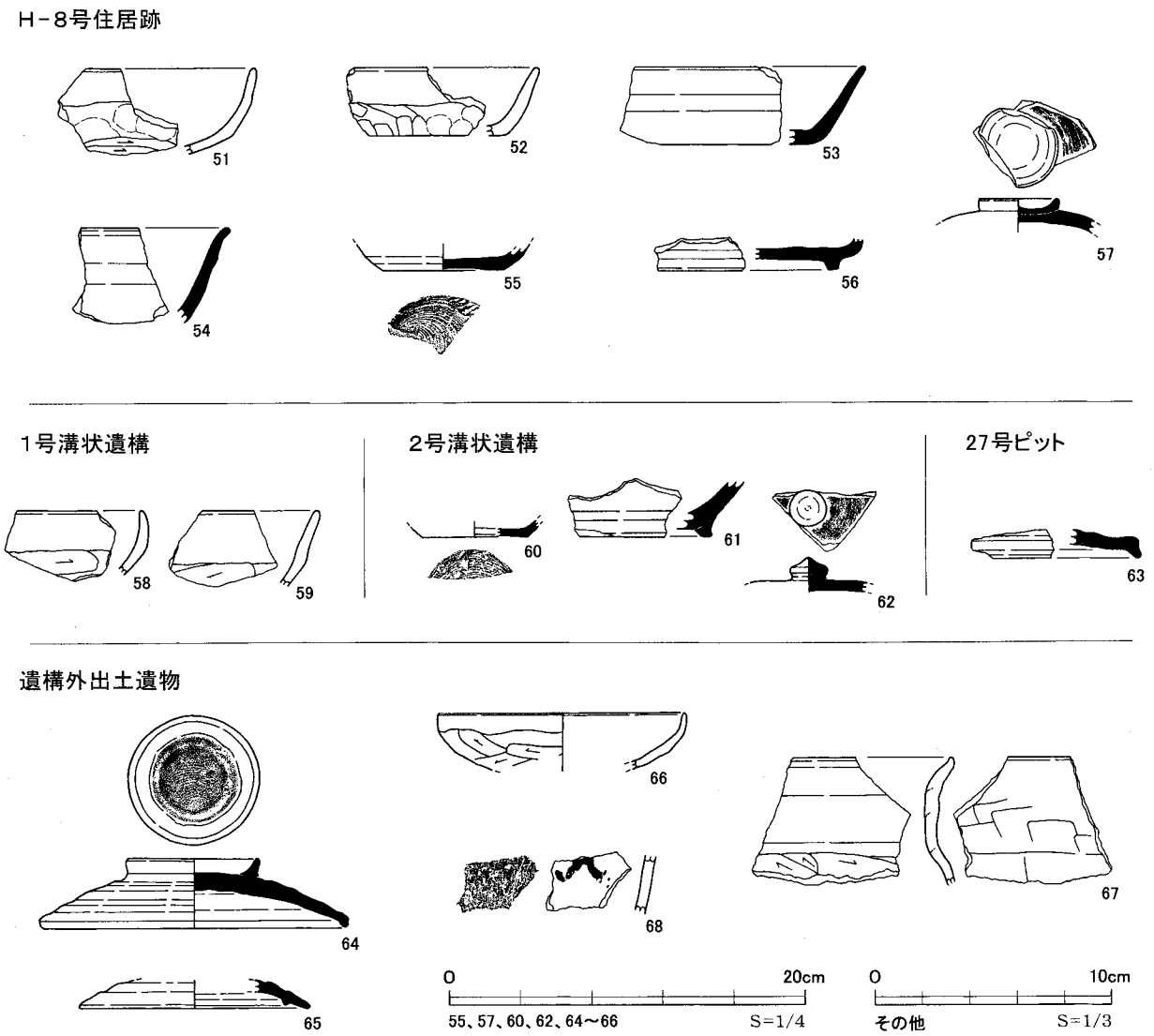


Fig.19　H－8号住居跡、1・2号溝状遺構、27号ピット、奈良・平安時代 遺構外出土遺物

Tab. 3　縄文時代遺物観察表

No.	時期・型式	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
1	後期前葉 堀之内2式	深鉢	／口縁部～胴部	堀之内1式の特徴をよく残す例。口唇部付近の内・外面に、横位沈線各1条。外面の単位部分には凹点。多条化した縦位沈線文の大半は直線文であるが、一部蛇行文も含まれる。地文に単節縄文LR. 縄文原体に硬い繊維を用いており、斜位に回転押捺されるため、縄目の条が縦に走る。内面横ナデ。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	白色粒、黒色粒	T-1 2 T-1 10 T-1 1, 5, 6, 8
2	早期前葉 撚糸文系土器	深鉢	／口縁部～胴部	わずかに外面が肥厚する口唇部。撚糸文の原体の種類はR。内面横ナデ。	明赤褐	明赤褐	白色粒、黒色粒、微砂粒	W-1
3	前期後葉 諸磯b式	深鉢	／口縁部～胴部	半截竹管状工具による横位の平行沈線文。地文に単節縄文LR。内面横ナデ。	橙	橙	白色粒、微砂粒	H-6 16
4	前期後葉 諸磯c式	深鉢	／口縁部～胴部	いずれの装飾にも半截竹管状工具を使用。外面口唇部付近に刺突文横位1列、刺突を伴う縦位の浮線文および円形貼付文。地文に横位の集合沈線。内面横ナデ。	にぶい褐	にぶい黄褐	チャート、粗砂粒	2区
5	前期後葉 諸磯c式	深鉢	／胴部	いずれの装飾にも細めの半截竹管状工具を使用。刺突を伴う横位および斜位の浮線文。地文に斜位の集合沈線。内面横ナデ。	橙	明黄褐	白色粒、微砂粒	H-8
6	前期後葉 諸磯c式	深鉢	／胴部	半截竹管状工具による格子目状文。内面ナデ。	橙	黄褐	白色粒、黒色粒、赤色粒	H-4
7	前期後葉 諸磯c式	深鉢	／胴部	縦位および横位の集合沈線。内面横ナデ。	橙	灰黄	白色粒、黒色粒	D-1 1
8	前期後葉 諸磯c式か	深鉢	／胴部	縦位および横位の集合沈線。内面ナデ。	明黄褐	にぶい黄橙	白色粒、黒色粒	P-4 1
9	前期後葉 諸磯c式か	深鉢	／胴部	櫛歯状工具による斜位の集合沈線。	黄橙	黄橙	白色粒、赤色粒	3区
10	前期後葉 諸磯c式か	深鉢	／胴部	おおむね横位の擦痕ないし浅い凹線。内面ナデ。／6と同一個体。	明黄褐	明黄褐	白色粒、微砂粒	3区
11	前期後葉 諸磯c式か	深鉢	／胴部	おおむね横位の擦痕ないし浅い凹線。内面ナデ。／5と同一個体。	橙	にぶい黄橙	白色粒、微砂粒	3区
12	前期後葉か	深鉢	／底部	底面が円盤状に残存。	明黄褐	にぶい黄橙	白色粒、黒色粒、赤色粒	2区
13	中期後葉 加曾利E3式か	台付鉢	／胴部下半～脚台部	底部より上に、櫛歯状工具による縦位の条線。	橙	にぶい黄橙	白色粒、黒色粒、赤色粒、微砂粒	5区表

Tab. 4　H-1号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
14	土師器 坏	／口縁部～体部	口縁部短く立ち上がる。外面の口縁部ナデ、体部ヘラケズリ。内面にナデ。	橙	橙	白色粒、黒色粒	H-1
15	土師器 坏	／口縁部～体部	口縁部短く直立ぎみ。外面の口縁部ナデ、体部ヘラケズリ。内面にナデ。	橙	にぶい褐	白色粒、黒色粒	H-1

Tab. 5　H-2号住居跡出土遺物観察表 (1)

No.	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
16	土師器 坏	器高3.7・口径(12.9)／3/4	丸底。口縁部短くやや内彎。外面の口縁部にナデ、体部・底部にヘラケズリおよび指頭圧痕。内面にナデおよび指頭圧痕。	明赤褐	明赤褐	白色粒、黒色粒、微砂粒	H-2 1
17	土師器 坏	器高(3.1)・口径(12.2)／1/4	丸底。口縁部短く立ち上がる。外面の口縁部ナデ、体部・底部ヘラケズリ。内面にナデおよび指頭圧痕。	明褐	にぶい褐	雲母、白色粒、黒色粒	H-2 3
18	須恵器 坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。口縁やや内彎。	灰	灰	白色粒	H-2 2
19	須恵器 坏	底径(8.2)／底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り後、縁辺にヘラケズリ。	灰	灰	長石、白色粒	H-2
20	須恵器 瓶か	／端部付近	ロクロ成・整形。端部下方に折れる。	黄灰	灰	白色粒、黒色粒	H-2
21	土師器 甕	底径4.3／体部～底部	外面ヘラケズリ、内面ナデ、底部付近に工具痕。	灰	灰	白色粒、黒色粒	H-2 12 H-2カマド

Tab. 6　H－2号住居跡出土遺物観察表 (2)

No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備　　考	注 記
22	3.4	3.1	1.7	11.9	粘土塊。	H－2

Tab. 7　H－3号住居跡出土遺物観察表 (1)

No.	器 種	計測値 (cm) ／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調 (外)	色調 (内)	胎 土	注 記
23	土師器 坏	器高 (4.0)・口径 (12.0)・底径 (8.4) ／ 1/3	外面の口縁部にナデ、体部に指頭圧痕。内面にナデ。	にぶい橙	橙	白色粒、黒色粒	H－3 12,15,33
24	須恵器 坏	器高 3.9・口径 (13.2)・底径 6.4 ／ 1/3	ロクロ成・整形。口縁部外反。底部回転糸切り無調整。	黄灰	灰黄	白色粒、黒色粒	H－3 25 H－3 27
25	土師器 甕	口径 (19.1) ／口縁部～胴部	「コ」の字状口縁。外面の口縁部にナデおよび指頭圧痕、胴部へラケズリ。内面の口縁部にナデ、胴部にヘラナデ。	橙	明赤褐	雲母、白色粒、黒色粒	H－3 2 H－3 3
26	土師器 甕	口径 (12.2) ／口縁部～胴部	「コ」の字状口縁。胴部中位上側に最大径 13.8cm。外面の口縁部にナデおよび指頭圧痕、胴部へラケズリ。内面の口縁部にナデ、胴部にヘラナデ。	橙	明赤褐	黒色粒、微砂粒	H－3 17

Tab. 8　H－3号住居跡出土遺物観察表 (2)

No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備　　考	注 記
27	4.5	3.8	2.8	25.2	粘土塊。	H－3

Tab. 9　H－3号住居跡出土遺物観察表 (3)

No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材　質	備　　考	注 記
28	13.6	6.2	2.9	353.3	安山岩	薦編石。	H－3 S2
29	12.5	5.5	4.4	426.1	安山岩	薦編石。	H－3 S1

Tab.10　H－4号住居跡出土遺物観察表

No.	器 種	計測値 (cm) ／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調 (外)	色調 (内)	胎 土	注 記
30	土師器 坏	／口縁部～体部	外面の口縁部にナデ、体部に指頭圧痕。内面にナデ。	橙	橙	雲母、白色粒、黒色粒	H－4
31	土師器 坏	／口縁部～体部	外面の口縁部にナデ、体部に指頭圧痕。内面にナデ。	明褐	橙	雲母、白色粒、黒色粒	H－4 3
32	須恵器 坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。	灰黄	灰黄	白色粒、黒色粒	H－4
33	須恵器 坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。	暗灰黄	黄灰	白色粒、黒色粒	H－4
34	須恵器 蓋	／端部付近	ロクロ成・整形。	灰黄	にぶい黄	白色粒、黒色粒	H－4
35	須恵器 甕	／胴部	外面カキ目、内面に無文の当て具痕。	灰	灰	長石、白色粒	H－4 1

Tab.11　H－5号住居跡出土遺物観察表 (1)

No.	器 種	計測値 (cm) ／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調 (外)	色調 (内)	胎 土	注 記
36	須恵器 坏	器高 3.4・口径 12.7・底径 7.3 ／ほぼ完形	ロクロ成・整形。口縁部外反。底部回転糸切り無調整。	灰	灰オリーブ	白色粒、微砂粒	H－5 4
37	須恵器 坏	器高 3.6・口径 12.8・底径 6.1 ／ 3/4	ロクロ成・整形。口縁部外反。底部回転糸切り無調整。	灰	灰	白色粒、粗砂粒	H－5 3
38	須恵器 坏	底径 (7.5) ／底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。	灰白	灰	黒色粒、微砂粒	H－5 2
39	須恵器 坏	底径 (7.4) ／底部	ロクロ成・整形。底部へラ起こし。	暗青灰	黄灰	雲母、白色粒、黒色粒	H－5 1

Tab.12　H－5号住居跡出土遺物観察表 (2)

No.	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材　質	備　　考	注 記
40	13.3	6.8	4.3	684.9	砂岩	薦編石。	H－5 S1

Tab.13　H－6号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
41	土師器坏	器高3.0・口径(12.0)・底径(9.4)／1/2	外面の口縁部にナデおよび指頭圧痕。内面にナデ。	明赤褐	橙	雲母、片岩、微砂粒	H－6 26
42	須恵器坏	底径(7.3)／体部～底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。／底面に墨書あり。	明黄褐	にぶい黄	白色粒、微砂粒	H－6 5
43	須恵器坏	底径(7.4)／胴部～底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。	灰	灰	白色粒、黒色粒、微砂粒	H－6 21
44	土師器甕	口径20.6／口縁部～胴部	「コ」の字状口縁。胴部中位上側に最大径23.6cm。外面の口縁部にナデおよび指頭圧痕、胴部ヘラケズリ。内面の口縁部にナデ、胴部にヘラナデ。	明赤褐	橙	白色粒、微砂粒	H-6 14,15,18,19,22,カマド

Tab.14　H－6号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	注記
45	4.5	3.8	2.8	25.2	粘土塊。	H－6

Tab.15　H－6号住居跡出土遺物観察表（3）

No.	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	材質	備考	注記
46	30.0	13.3	10.3	5500.0	安山岩	支脚。ほぼ全面に擦痕、側縁を中心に磨痕あり。砥石を転用したものか。	H－6 S1

Tab.16　H－6号住居跡出土遺物観察表（4）

No.	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	注記
47	[8.3]	0.5	0.6	8.7	種類不明。	H－6

Tab.17　H－7号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
48	須恵器坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。口縁部外反。	黄灰	黄灰	雲母、白色粒、微砂粒	H－7 燃焼部
49	須恵器坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。口縁部外反。	灰黄	灰黄	雲母、微砂粒	H－7 15
50	土師器甕	口径（19.6）／口縁部～胴部	「コ」の字状口縁。胴部中位上側に最大径21.0cm。外面の口縁部にナデ、胴部ヘラケズリ。内面の口縁部にナデ、胴部にヘラナデ。	橙	橙	白色粒、微砂粒	H－7 8,9,10,11

Tab.18　H－8号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調（外）	色調（内）	胎土	注記
51	土師器坏	／口縁部～体部	外面の口縁部にナデ、体部にケズリおよび指頭圧痕。内面にナデ。	明赤褐	橙	雲母、微砂粒	H－8 8
52	土師器坏	／口縁部～体部	外面の口縁部にナデ、体部にケズリおよび指頭圧痕。内面にナデ。	明赤褐	明赤褐	白色粒、赤色粒、微砂粒	H－8 13
53	須恵器坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。	にぶい黄	にぶい黄	白色粒、微砂粒	H－8 3,4
54	須恵器坏	／口縁部～体部	ロクロ成・整形。口縁部やや外反。	黄褐	灰黄褐	白色粒、微砂粒	H－8 12
55	須恵器坏	底径(6.7)／底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。	黄灰	暗灰黄	白色粒、微砂粒	H－8 9
56	須恵器碗または皿	／底部	ロクロ成・整形。底部ヘラ起こし後、断面台形の高台貼り付け。	黄灰	にぶい黄	白色粒、微砂粒	H－8 10
57	須恵器蓋	／天井部	天井部、回転糸切り後に環状摘み貼り付け。糸切り痕残る。摘み中心部には小突起あり。摘みの径4.5cm。	灰	淡黄	白色粒、微砂粒	H－8

Tab.19　1号溝状遺構出土遺物観察表

No.	器 種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調(外)	色調(内)	胎 土	注 記
58	土師器 坏	／口縁部～体部	口縁部短く内彎。外面の口縁部にナデ、体部にヘラケズリ。内面にナデ。	明赤褐	明赤褐	雲母、微砂粒	W-1
59	土師器 坏	／口縁部～体部	口縁部と体部との境に弱い稜。外面の口縁部にナデ、体部にヘラケズリ。内面にナデ。	橙	橙	白色粒、黒色粒、微砂粒	W-1

Tab.20　2号溝状遺構出土遺物観察表

No.	器 種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調(外)	色調(内)	胎 土	注 記
60	須恵器 坏	底径(6.0)／底部	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。	灰黄	暗灰黄	白色粒、微砂粒	W-2
61	須恵器 碗	／底部	ロクロ成・整形。底部ヘラ起こし後、断面台形の高台貼り付け。	灰黄	灰黄	白色粒、微砂粒	W-2
62	須恵器 蓋	／天井部	天井部、回転ヘラ切り後に宝珠形の摘み貼り付け。摘み径2.1cm。	灰黄	灰黄	白色粒、微砂粒	W-2

Tab.21　27号ピット出土遺物観察表

No.	器 種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調(外)	色調(内)	胎 土	注 記
63	須恵器 蓋	／端部	ロクロ成・整形。端部は短く下方に折れる。	黄灰	灰黄	白色粒、微砂粒	P-27

Tab.22　奈良・平安時代 遺構外出土遺物観察表

No.	器 種	計測値(cm)／残存	器形・文様などの特徴／備考	色調(外)	色調(内)	胎 土	注 記
64	須恵器 蓋	器高3.9・口径17.0／ほぼ完形	体部・天井部やや丸みを帯びる。回転糸切り後に環状摘み貼り付け。摘み径7.3cm。端部、短く下方に折れる。天井部、回転ヘラケズリ。	灰黄	灰黄	白色粒、黒色粒、微砂粒	2区
65	須恵器 蓋	／天井部～端部	ロクロ成・整形。端部にカエリがつく。	灰黄	黄灰	白色粒、微砂粒	3区
66	土師器 坏	／口縁部～体部	口縁部短く内彎。外面の口縁部にナデ、体部にヘラケズリ。内面にナデ。	橙	橙	白色粒、微砂粒	3区
67	土師器 甕	／口縁部～胴部	「コ」の字状口縁。外面の口縁部にナデ、胴部ヘラケズリ。内面の口縁部にナデ、胴部にヘラナデ。	明赤褐	橙	雲母、微砂粒	3区
68	土師器 甕	／胴部	外面ヘラケズリ、内面ナデ。／外面に墨書あり。	橙	橙	雲母、白色粒、微砂粒	4区

Ⅵ まとめ

本編の末尾にあたり、今回の調査の成果をあらためて概括する。

縄文時代の遺構として、竪穴状遺構1基および土坑1基が検出されたほか、土器破片45点が採取された。1号竪穴状遺構については、他の箇所で皆無であった後期前葉の土器破片が覆土より比較的まとまって出土したことなどから、遺構扱いとした。また、遺構外出土の土器破片は、大半が前期後葉の諸磯bおよびc式によって占められ、一部早期や中期後葉のものを含んでいた。これら成果の内容は、同時代において当地がなんらかの形で利用されていた傍証とはなるものの、本格的な集落が展開していたことを示唆するには至らない。

奈良・平安時代の成果としては、竪穴住居跡8軒が挙げられる。住居跡覆土からの出土遺物を見る限り、本遺跡を含む往時の集落は、8世紀末葉から9世紀中葉の間に設営されたものと推測しうる。ただし、2号溝状遺構の覆土より出土した須恵器蓋は、宝珠の形状から7世紀後半代に属するとみられ、集落の成立時期はさらに古いのかもしれない。

また、時期不明とした溝状遺構2条、およびピット50基について、その一部が奈良・平安時代に属する可能性

がある。とりわけ1号溝状遺構については、布掘りによる柱穴列との類似が認められ、本来の性質・機能が気になるところである。

調査区の形状などによる制約から、今回の成果に対しては、個別の遺構・遺物の記録が中心となり、遺構相互の関連性や集落の構成についてふれることができなかった。調査事例の増加をまち、近辺集落遺跡との比較をふまえた再検討を行うことを期して、結語に代えたい。

主要参考文献

＊(番号)は、Tab.1「周辺の遺跡一覧表」の文献№に対応。

(1) 山下歳信・藤坂和延『乙西尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』大胡町教育委員会 1994

(2) 山下歳信・藤坂和延『堀越柴山遺跡』大胡町教育委員会 1996

(3) 山下歳信『堀越丁二本松B地点遺跡・大胡神社前遺跡・養林寺裏遺跡』大胡町教育委員会 2002

(4) 山下歳信『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡・茂木二本松遺跡』大胡町教育委員会 1998

(5) 山下歳信・水谷貴之『横沢向山B地点遺跡』大胡町教育委員会 2001

(6) 徳江秀夫『群馬風土記 Vol,12 グンマ古代史への旅⑩飾り太刀の世界』1991

(7) 藤坂和延・寺崎祐助『横沢新屋敷遺跡』大胡町教育委員会 1997

(8) 藤坂和延『横沢芳山遺跡 横沢大塚跡』大胡町教育委員会 2002

(9) 大胡町誌編纂委員会『大胡町誌』大胡町教育委員会 1976

(10) 群馬県教育委員会事務局文化財保護課『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会 1989

(11) 小峰 篤・横澤 真一『荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002

(12) 小峰 篤・横澤 真一・平野 岳志・小林 和美『荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003

(13) 群馬県 群馬県史蹟名勝天然紀年物調査報告書第5輯『上毛古墳綜覧』群馬県 1938

(14) 荻野博巳『小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1997

(15) 大賀 健ほか 1998『川白田遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団

(16) 坂口好孝・眞塩明男『五代檜峯Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998

(17) 中澤充裕・杉浦つや子『檜峯遺跡』前橋市教育委員会 1982

(18) 前橋市史編さん委員会『前橋市史』第1巻 前橋市 1971

(19) 羽鳥政彦『広面遺跡』富士見村教育委員会 1992

(20) 秋池武・西田健彦『川曲遺跡・東公田遺跡』群馬県教育委員会 1982

(21) 井野誠一・綿貫綾子ほか『芳賀北部団地遺跡Ⅰ』芳賀団地遺跡群第5巻 前橋市教育委員会 1994

(22) 中澤充裕・唐沢保之・中束彰子『芳賀東部団地遺跡Ⅰ』芳賀団地遺跡群第1巻 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1984

(23) 鈴木雅浩・狩野吉弘『芳賀北原遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991

(24) 林信也・福田貫之『鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ』前橋埋蔵文化財発掘調査団 1999

(25) 坂口好孝・眞塩明男『鳥取福蔵寺遺跡』前橋埋蔵文化財発掘調査団 1998

(26) 坂口好孝・眞塩明男『鳥取東原遺跡』前橋埋蔵文化財発掘調査団 1998

(27) 金子正人・荻野博巳ほか『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002

(28) 荻野博巳・板垣宏・権田友寿『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003

(29) 近藤雅順『五代伊勢宮Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003

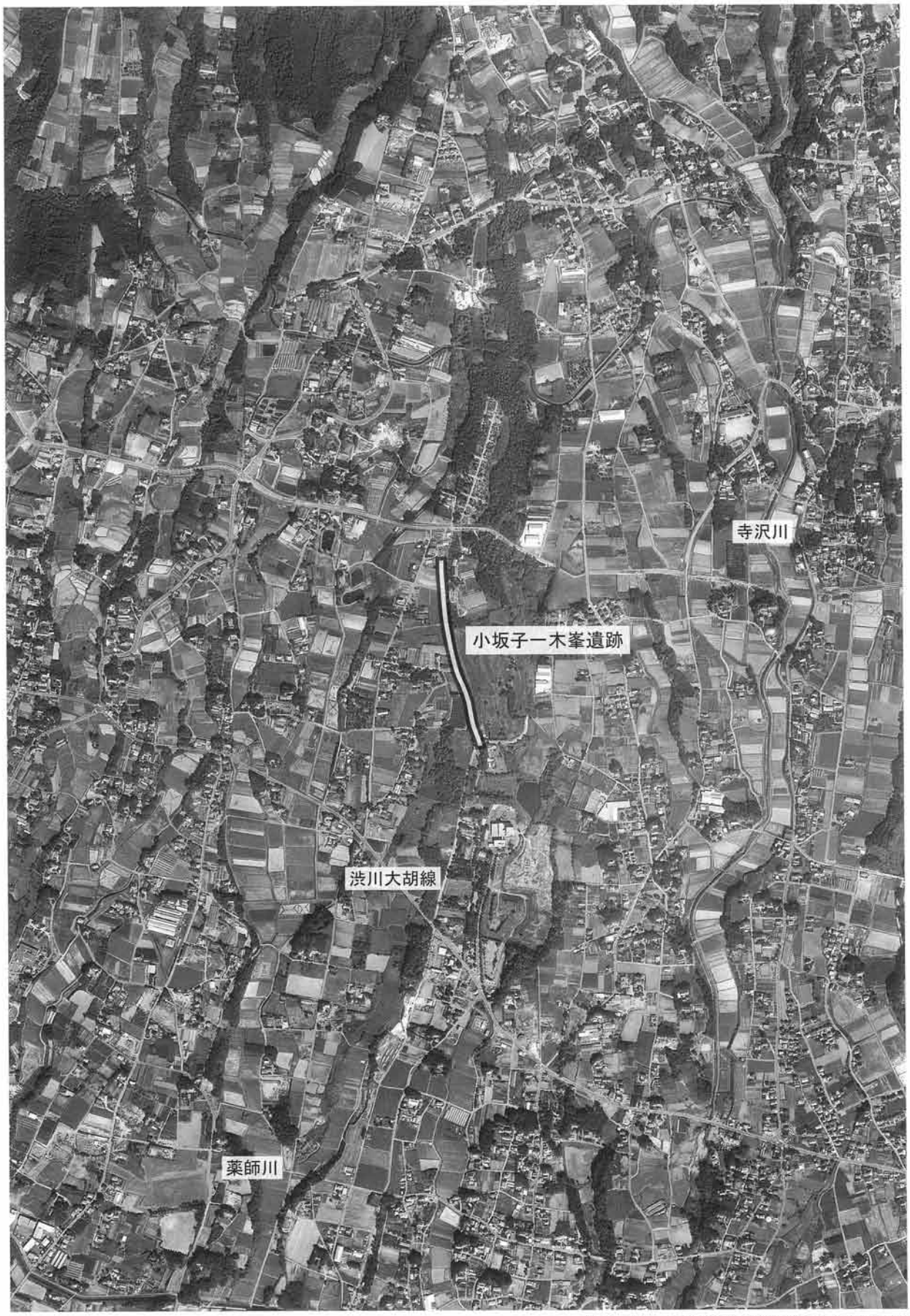
(30) 高橋一彦・倉品敦子『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002

(29) 長井正欣ほか『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001

(30) 齋木一敏・須藤友子『五代江戸屋敷遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001

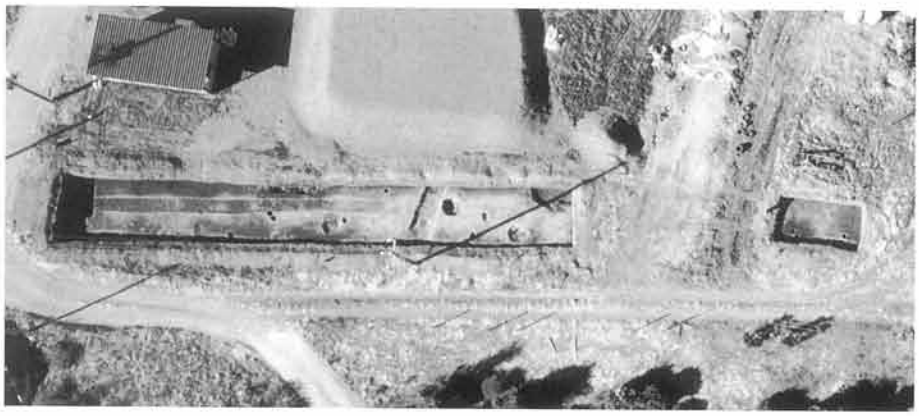
(31) 荻野博巳・齋木一敏『五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001

写 真 図 版

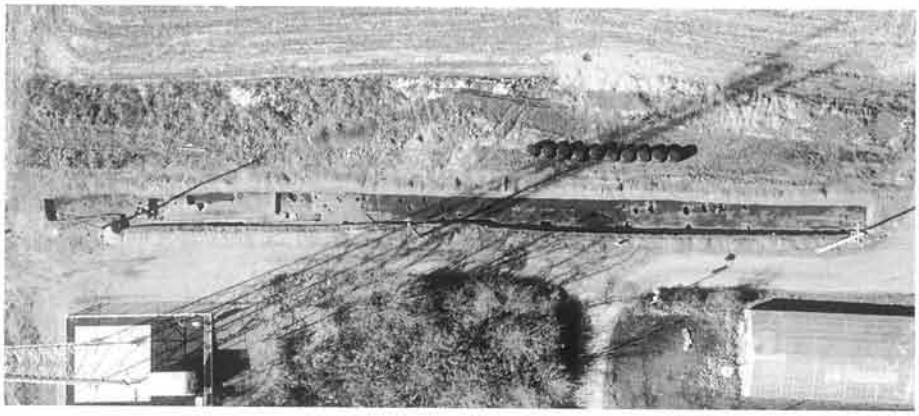


(真上≒北 S=1/30,000 国土地理院 2001年10月撮影)

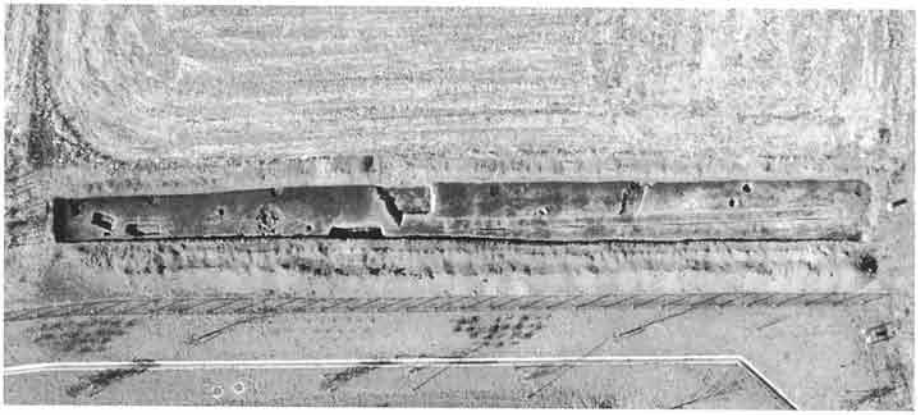
遺跡の位置と周辺の地形



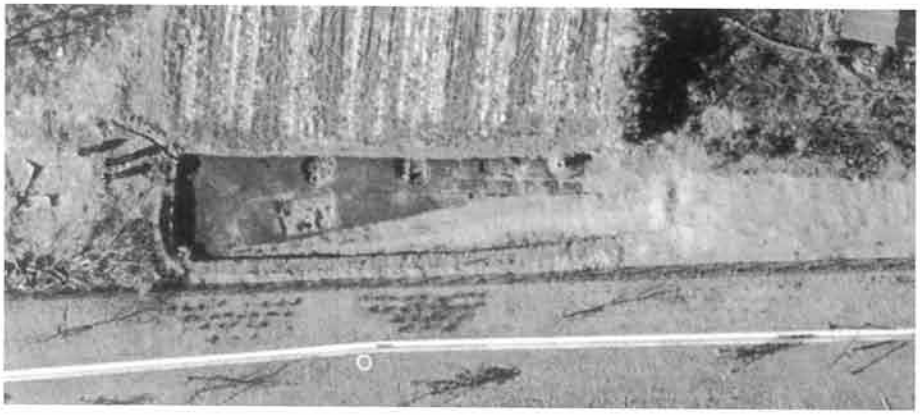
1区・2区全景



3区全景

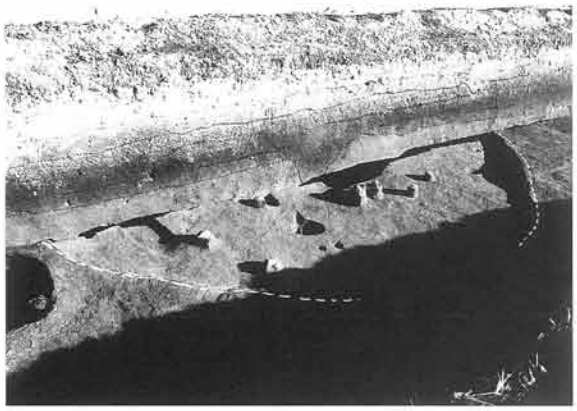


4区全景

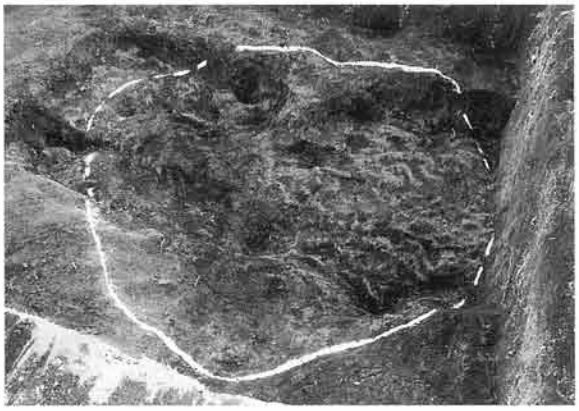


5区全景

1号竪穴状遺構（西から）



1号竪穴状遺構 遺物出土状況（北西から）



1号土坑（北から）

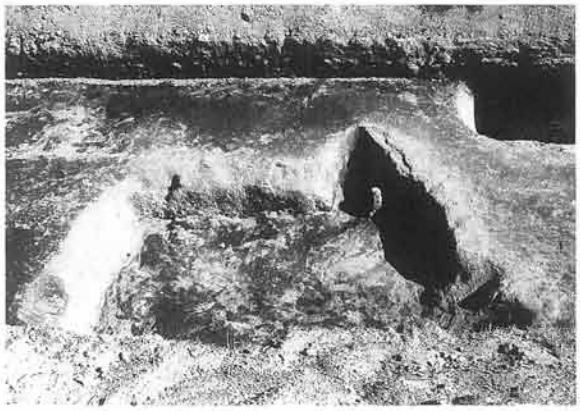
1号住居跡掘り方（南から）

2号住居跡生活面（北西から）

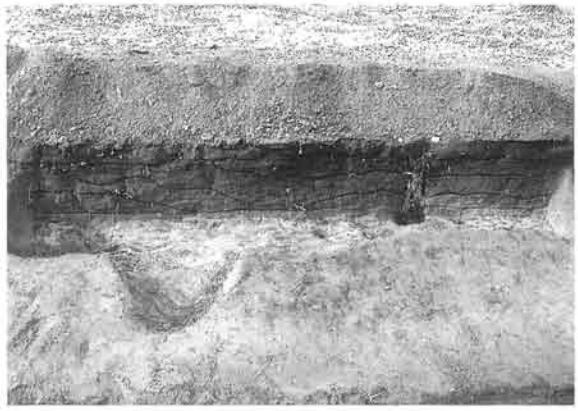
2号住居跡 カマド南北セクション（西から）

2号住居跡 カマド東西セクション（南から）

2号住居跡貯蔵穴（東から）



2号住居跡掘り方（西から）



3号住居跡掘り方（東から）

3号住居跡 カマド東西セクション（南から）

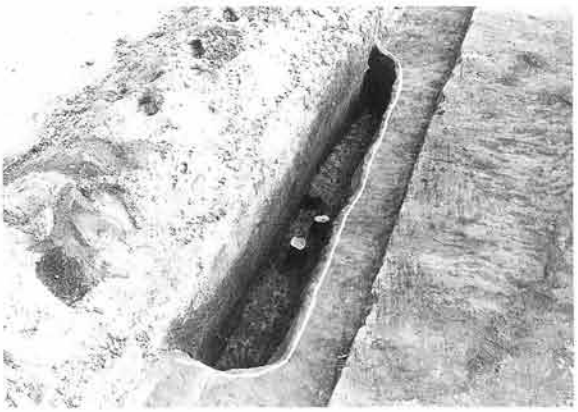
3号住居跡貯蔵穴（南から）

4号住居跡（東から）

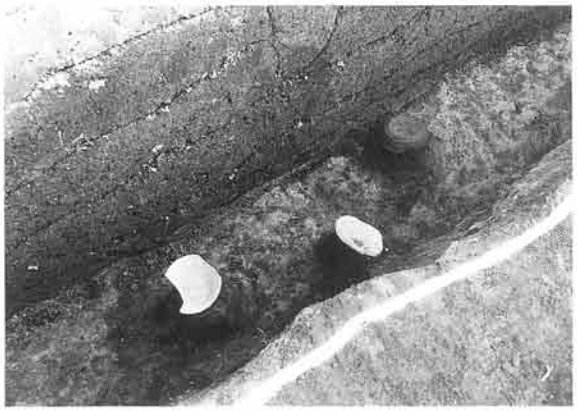
4号住居跡 カマド南北セクション（西から）

4号住居跡 カマド東西セクション（南から）

4号住居跡掘り方（東から）



5号住居跡（北から）



5号住居跡 遺物出土状況（北西から）

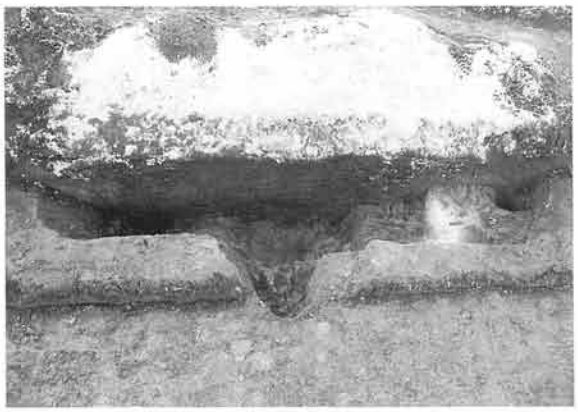
6号住居跡生活面（西から）

6号住居跡南北セクション（東から）

6号住居跡 遺物出土状況（西から）

6号住居跡貯蔵穴（東から）

6号住居跡掘り方（西から）



7号住居跡生活面（東から）

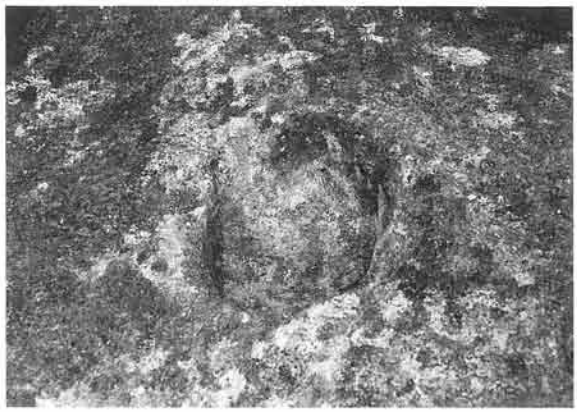
7号住居跡セクション（東から）

7号住居跡 カマド東西セクション（南から）

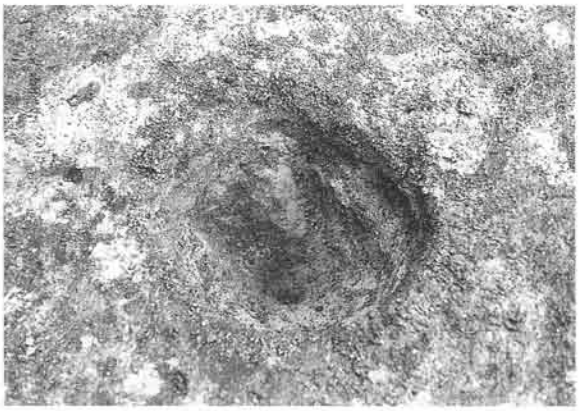
7号住居跡掘り方（西から）

8号住居跡生活面（東から）

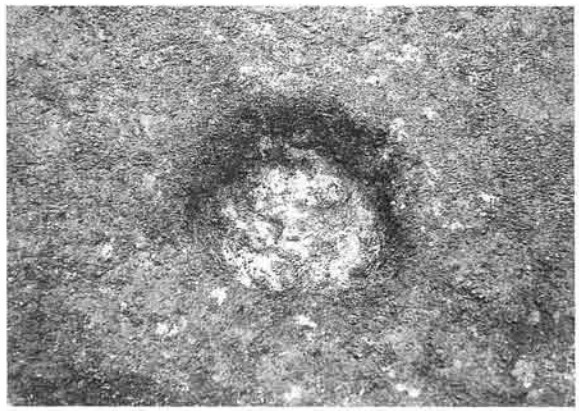
8号住居跡 P−1（東から）



8号住居跡 P−2（東から）

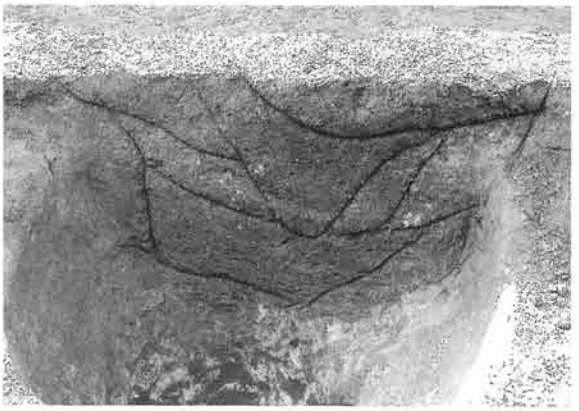


8号住居跡 P−3（東から）



8号住居跡 P−4（東から）

8号住居跡掘り方（北から）



44号ピットセクション（東から）

1号溝状遺構（北から）

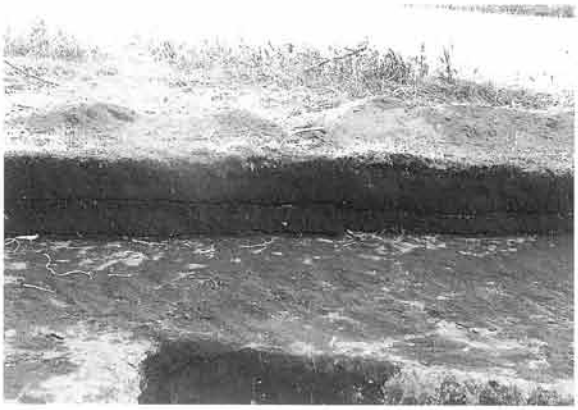
2号溝状遺構（東から）

1号溝状遺構セクション（南から）

2号溝状遺構セクション（東から）

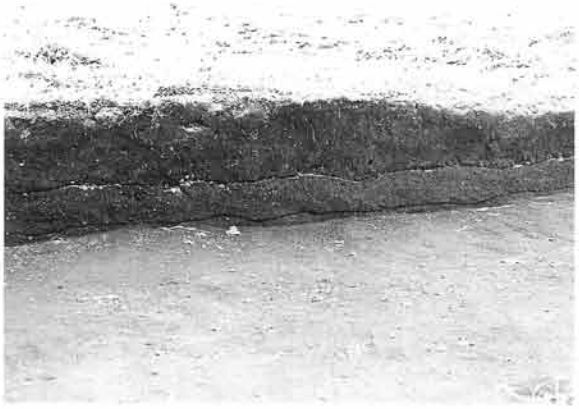
1区基本層序（南から）

3区基本層序（東から）



4区基本層序（東から）

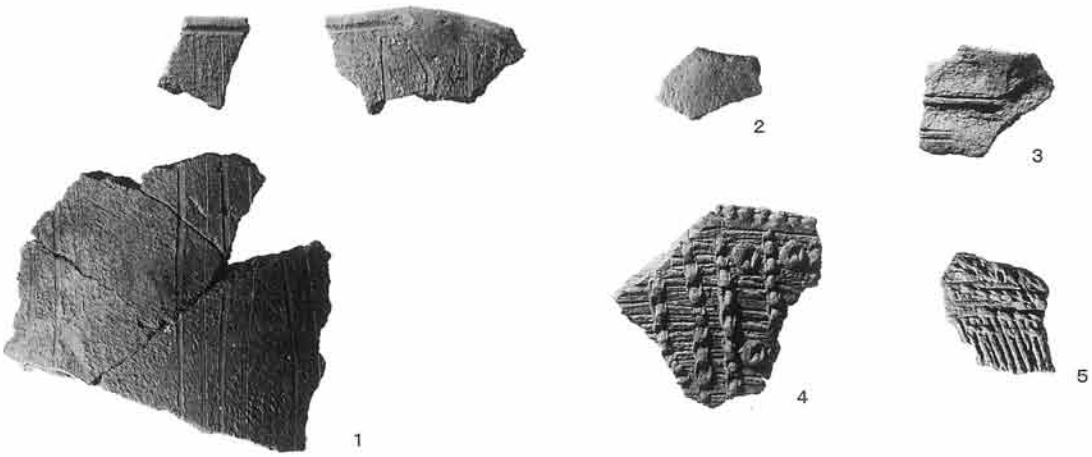
3区基本層序（テストピット、西から）



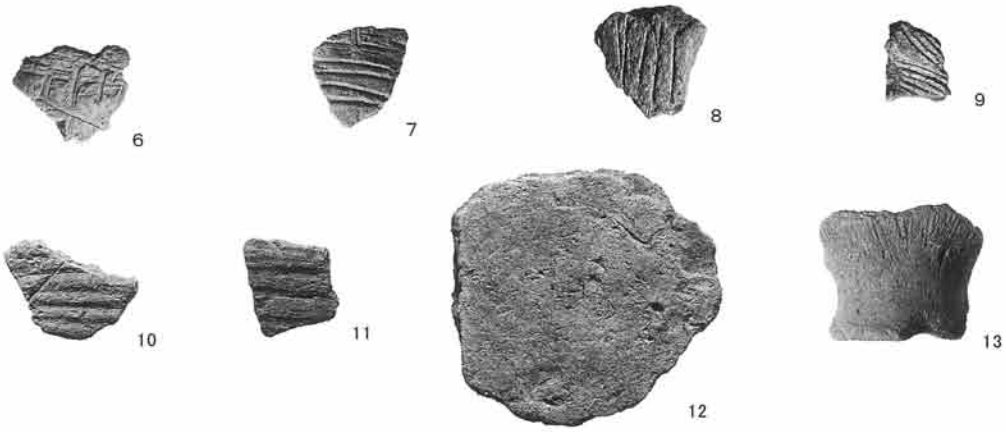
5区基本層序（東から）

作業風景①（北から）

作業風景②（東から）

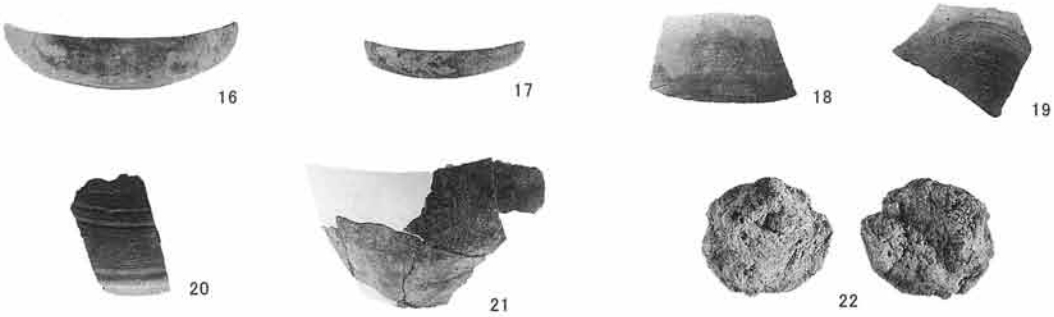


1号竪穴状遺構



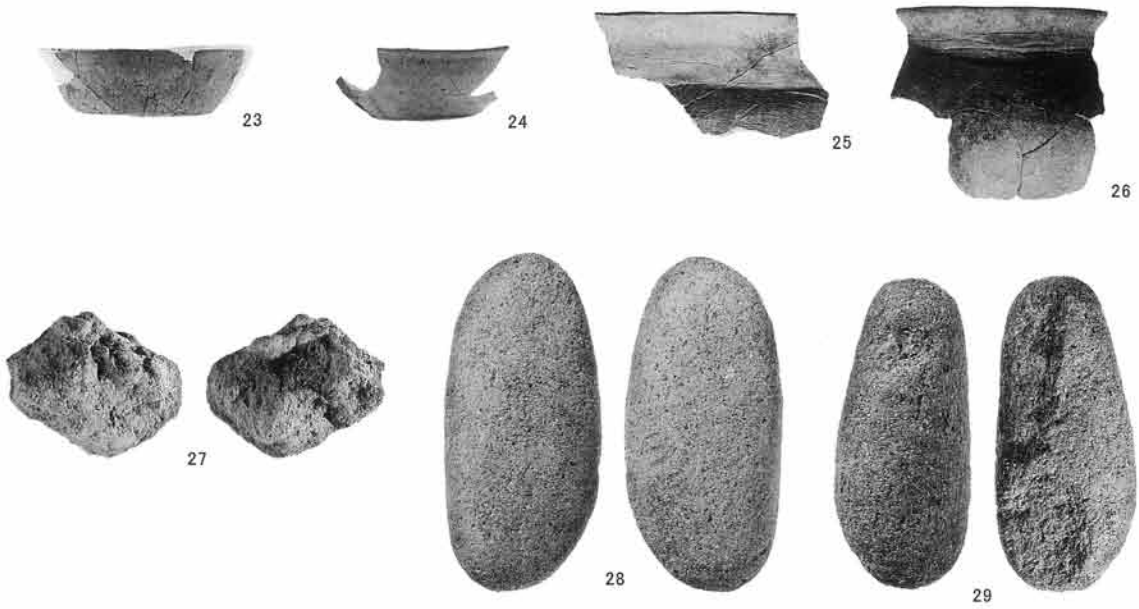
縄文時代 遺構外出土遺物

H－1号住居跡

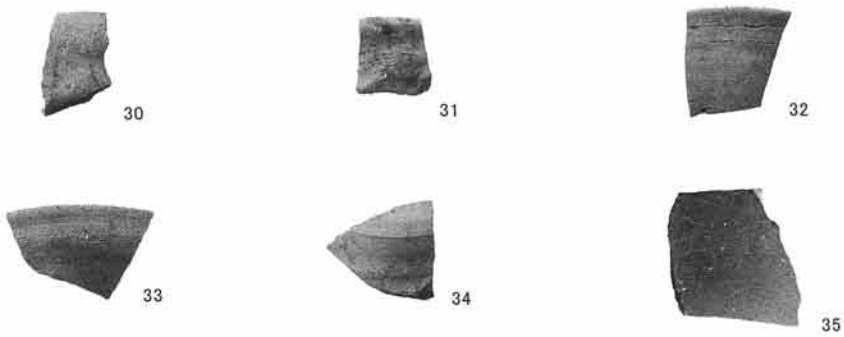


H－2号住居跡

縄文時代の遺物、H－1・2号住居跡出土遺物



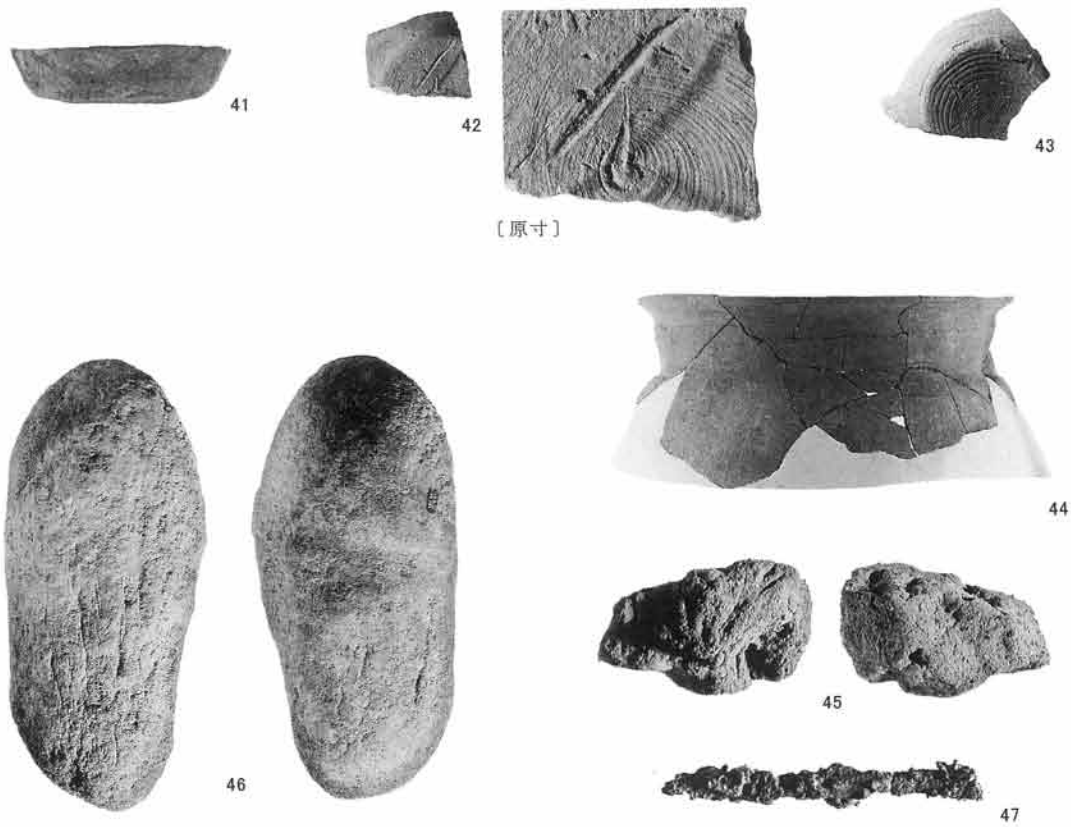
H-3号住居跡



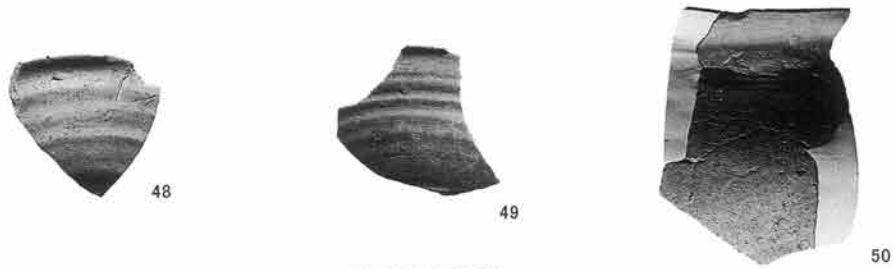
H-4号住居跡

H-5号住居跡

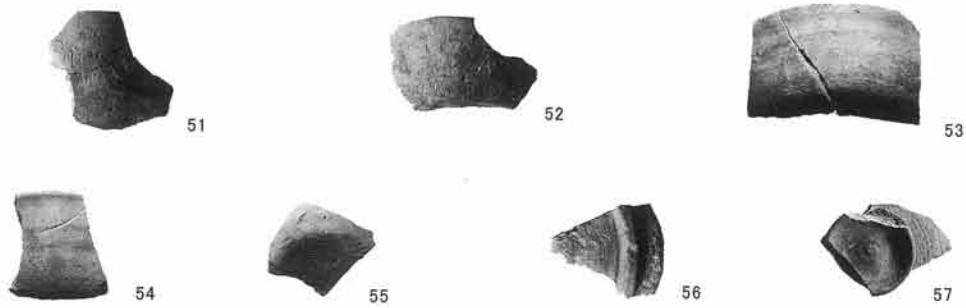
H-3～5号住居跡出土遺物



H－6号住居跡



H－7号住居跡



H－8号住居跡

H－6～8号住居跡出土遺物

58

59

1号溝状遺構

60

61

62

63

2号溝状遺構

27号ピット

64

65

66

67

68

〔原寸〕

遺構外出土遺物

1・2号溝状遺構、27 号ピット、奈良・平安時代 遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	コザカシイチキミネイセキ
書名	小坂子一木峯遺跡
副書名	小坂子町内最終処分場西側生活道路（市道 06 － 475）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰 篤　和久裕昭　柳井有子
編集機関	㈲ 毛野考古学研究所 〒379-4142　群馬県前橋市下阿内町250番地－1　TEL 027-265-1804
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団 〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2　TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦 2005（平成17）年 3 月 31 日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
小坂子一木峯遺跡（コザカシイチキミネイセキ）	群馬県前橋市小坂子町 1827-2 ほか（グンマケンマエバシシコザカシマチ）	10201	16C36	36°25′57″～36°25′41″	139°7′45″～139°7′47″	041214～050120	1,639 ㎡	生活道路の付け替え工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小坂子一木峯遺跡	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代 時期不明	竪穴状遺構 1基 土坑 1基 住居跡 8軒 溝状遺構 2条 ピット 50基	縄文土器、土師器、須恵器、墨書土器、鉄製品、薦編石（こもあみいし）、砥石	6号住居跡のカマドより、砥石を転用した支脚とみられる石製品が出土。

小坂子一木峯遺跡

小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06 － 475）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005（平成17）年 3 月 25 日　印刷
3 月 31 日　発行

編集　㈲ 毛野考古学研究所
発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷　朝日印刷工業株式会社